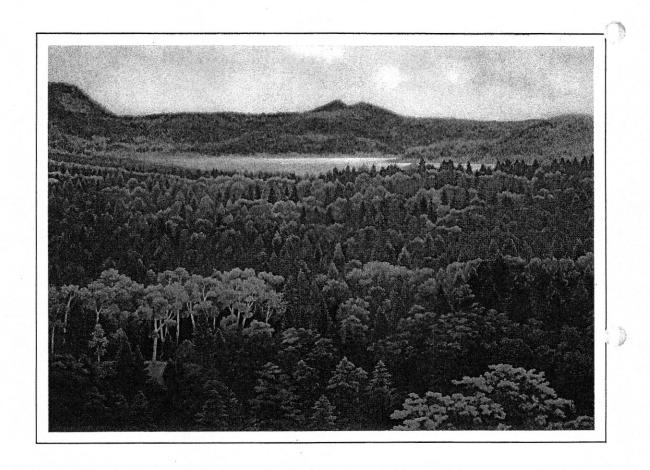
国民と森林

1988年・夏季 第 25 号



国民森林会議



— 古い歴史のある村だそうで……。

■書 四○○○年前の遺跡が出まして、五 圖書 四○○○年前の遺跡が出まして、五 個書 四○○○年前の遺跡が出ました。新田はた新田義貞の残党が住み込みました。新田はた新田義貞の残党が住み込みました。新田は地で暮らしたわけです。徳川幕府時代は、加地で暮らしたわけです。徳川幕府時代は、加地で暮らしたわけです。徳川幕府時代は、加地で暮らしたわけです。徳川幕府時代は、加地で暮らしたわけです。徳川幕府に隠れ火薬を製造ですから、それだけ人目に付きに、五 個書 四○○年前の遺跡が出まして、五

多いのです。

多いのです。

多いのです。

会掌づくりの民家、民謡の宝庫でもあります。
はないのです。
とから歴史や地理の先生の関心もまり、古い生活様式や言葉、民具もあります。

このセンターは、村内に民宿が増え、中高生に開所した「山村研究センター」です。また、にも便利なようにと思って作ったのが4年そうした資料が散逸しないように、研究者

郷土に自信と誇り取戻す

す。年間の入り込み者は六二万人にもなりまれる。見らになりました。その宣伝も担当していまずらにかけでも七〇〇〇人も『山村留学』をするよ

― 村起こしのセンターですね。

文化として作り上げることが、いまの私達に 歴史を知ることによって、村人はその時代そ 四三四四人いた村民は50年には二一一〇人、 起こしもできる― だすことが、過疎に住む人間の喜びになれば村 与えられた任務-文化を作り出してきた。いまの文化を将来の おう」という願いもセンター設立にありまし 出そうと思う人に「村の価値を見直してもら 60年には一七七○人になりました。村を抜け の時代の村民が知恵を絞って時代に適応した れが大切なことなんだ」ということを気付く。 た。研究に来られる先生の話しによって「こ 圖書 平村は富山県境の村です。22年には ーということに価値を見い -という気持ちもありまし

ゃいますね。 ― 会員の宮口伺廸先生もそちらにいらゃし

圖書 センターの常任幹事も務めていただ

と思っています。ですから記念のシンポジュウムも考えたい、ですから記念のシンポジュウムも考えたい、にまとめて発表しています。今年は一〇周年ムが運営に当たっていますが、毎年シンポジルています。センターは村外の学者など一三

施設があります。 開所)、若者の城ともいえる「春光荘」などのとの対話館」(44年開所)、和紙工芸館(88年国民宿舎「五箇山荘」(64年開所)、「『やま』

婚も数件。村は変わりました。紙の研究をしています。こうしたことで、結ターンで働いています。いまインテリアの壁増えました。和紙工芸館では五人の若者がU国民宿舎を作った時には、一五人の村民が

民と森林



1988年夏季号 No.25

くを	関インダビュー>
郷土	に自信と誇り取戻す
平林	けの"村起し"を圖書村長に聞く
<写真	■> 森林フォーラムを見る2
<座影	&会 > 教育森林 これからの課題4
森材	の体系化した位置づけを
隅名	三喜男/大内力/只木良也/松沢譲
翻 報性	등圖「白神山地を考える会」の発足10
	- 地域で考えたこと —— 野添憲治
■森材	、フォーラムを見る<1>14
1	王子/奥多摩フォーラム
<連載	森と木のある生活⑥ >市川健夫…16
	の中で育てる山蚕
	は 林政転換期を考える>田中茂…20
	₹> 北海道の匂い木内綾…22
	抜き森林・林政ジャーナル…2—5月…24
	の消息26
沼田]真/朝日グリーンセミナー/富山和子
	田武/半田良一
國会員	しの出した本26
自然	と人間の哲学/炭焼日記/千利休とそ
	たち/新刊紹介
<第6	回総会報告>28
300	動き33
	3回評議員会33
森材	基金プロジェクトの討論33
<会員	紹介>
秋山紀子/伊藤喜雄/尾崎克幸/川瀬金次郎	
■緑の	団体協議会総会37
	山湖遠望東山魁夷

(1985年:53.0cm×72.8cm)

表 果てしなくひろがる緑の樹林。 紙 爽やかな光と風。 の 言 北海道での印象を基に、

葉 私の心の祈りを描く。

(足立美術館=安来市=所蔵)

隅谷三喜男 目次題字 森前しげを カット

るか、 活④かんばしい風土と人情⑤たゆまぬ生産活 国土を守るはたらき③たくましい村びとの牛 言葉で①美しい自然のいとなみ②豊かな水と は地形的なものを連想させますが、 の対話館」で〝やま〟とカナにしたのは、 いう気持ちでやってきました。 その光が見えかけました。 をしていくことを願っていましたが、やっと ものではない。村民が意欲を持って村づくり いく言葉として行政が受け止め、村民が使う した。「過疎」と言う言葉は地域を開発して 与える行政でなく、盛り上がりをどう助け 村長になったとき、村民は暗いイメージで できるだけ道明けを行政がしていくと 「やま」と "かな" Ш

動の場をイメージさせたいからでした。

した。 県都富山から一時間半で来れるようになりま その雪を利用してスキー場を一昨年作りまし ました。共通の話題ができ、先行きの不安を持 つ人達に協同意識を植えることができました。 冬には三
がを越す豪雪に悩まされましたが、 自主的に集落毎に花づくりなど取り組み 五九年には金沢―平村の三〇四号が開通 五六年には高岡―岐阜を結ぶ国道一五六 道には全精力をつぎ込みました。 そう

山をマイナスでなくプラスのイメージに

村民会議』で呼び掛け、美しい村をつくろう 置き替えたわけですね。 58年から、うるわしい村づくり運動

達に合う力でやることが大事です。 を入れるのでなく、 欲を持った村民もでてきました。大きな企業 レストランや貸しスキー屋をやろうという意 した条件を作ってのスキー場でした。いまは 木工も協業体で三つあって玩具・椅子や机 村民が寄り集まって自分

平均に達していますが、 をやってきた自信ある言葉に打たれました) いながら、過疎の条件を逆手にとり村づくり ん。老人が生産に参加して戦力になっていま (取材後感 シイタケの駒を作っています。 六五歳以上が二三%、 「まだまだ問題もあるが」とい ボケは一人もいませ 昭和九五年の日本の

森林フォーラムを見る

♪雨に降られましたが、それだけに新緑のあざやかさが (奥多摩フォーラム) ーラム) て――(奥多摩フォーラム)

☆島嘉寿雄会員も熱心に説明(奥多摩フォ ○天然林と人工林の調和が水源地をおいっ

に、約半年にわたってくり広げられるイベン トを写真で追ってみました。(記事14~) ォーラム。がスタートしました。四月二四日 八王子での植樹祭を中心とする行事を皮切り 都市と山村を結ぼう― -という 188森林フ



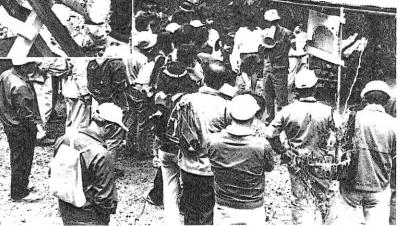
て植樹(八王子フォーラム)
□「ボクの植えた木は根づくかな」と四○○人が参加し



上一丸大切りに挑戦,右一 炭ガマの説明を聞く参加者 (八王子フォーラム)



☆木原啓吉(右), 秋山紀子(左)会員も実行 委員としてあいさつ(八王子フォーラム)



座談会

林、これからの課題を探る

森林の体系化した位置付けを



毛皮や山の写真に囲まれての座談会

られます。例えば林野庁は、従来の林業経営に 省もこの五月、「現代っ子はマッチも使えない プラスして、森林空間の総合利用に動き、文部 をみました。その間、国の政策にも種々の変化が見 すめ、ようやく今年になって具体的なスタート としてもモデルになる活動をしようと準備をす の提言をしたのは三年前ですが、国民森林会議 司会(松沢讓) 具体化した教育森林 国民森林会議が「教育森林

しようとしているのですが、この時期に発足し 森林はその基本条件の一つであるリダーを養成 を作った人が、新聞で「もっと基本条件を整備 た教育森林はどんな意味をもっているか。 せよ」と訴えていましたが、この八ケ岳の教育 隅谷三喜男 こうした周囲の変化の中で、山村留学の端緒 三年前に国民森林会議が教育森

れからの展望を語ってもらいました。 八ケ岳で初めて教育森林の試みがスタートした五月二八日、現地でその意義、

ح

としている。 らなくなった。東京の子供は土を踏まずに、四 きに提言が火をつけた。それが具体的になろう いませんが、そうした動きの芽生えがあったと た。良いことです。すべてが私たちの力とはい えた。それから一~二年たち少しづつ動き始め だ」という。文部大臣も「何とかしよう」と答 提言し、農林大臣に会って話すと「大いに賛成 角いコンクリートばかり見ている。教育森林を 森林との距離が遠くなり、教科書にも林業が載 林の提言をしたのは、子供達と自然、 とりわけ

自然教育観察林の指定を受けることになりまし 恵まれている。そこで林野庁にもお願いして、 日本の中心の八ケ岳は全国から集まれる条件に さくなっている。子供達のリーダー養成を教育 としても、森の中で生活するときのリーダーが 森林の中心課題として全国的にやる必要がある。 いない。教育の現場からの森林・林業の姿が小 子供達に対し、森林・林業のことを教えよう

to

た。 年掛かるだろうが、ようやく第一歩を踏み出し と思ってやってきた。本格的な歩みには三~四 地の受け入れ態勢を受け、国民的運動にしたい 運動をしていくには我々の理念もあるが、現

考えて選びましたが。 司会 地理的にも国有林の中でここが最適と

ケ岳は日本の中心

只木良也 以前テレビで、子供達を山に連れていって自然を体験させる様子を放映していまん切っていくとノコが丸太に食い込んで動かなくなった。先生はテレビで写されているものだん切っていくとノコが丸太に食い込んで動かなくなった。先生はテレビで写されているものだなった。先生はテレビで写されているものだがら大汗をかいて切るがノコが動かない。丸太を下から切るということを知らないのですね。を下から切るということを知らないのですね。がない」と言うのは言い逃れで、長野県などはがない」と言うのは言い逃れで、長野県などはがない」と言うのは言い逃れで、子供達を山に連れているで対応しようとするよりも「あそこへ行けば森のことを教えてくれる」ということを八



隅 谷 先 生 国民森林会議会長 前東京女子大学長

ケ岳教育林で実現できたら理想的だと思います。 ケ岳教育林で実現できたら理想的だと思います。 ケ岳教育林で実現できたら理想的だと思います。 ケ岳教育林で実現できたら理想的だと思います。 ケ岳教育林で実現できたら理想的だと思います。

今回は国有林が一二〇〇旭の「自然観察教育本」に設定された訳ですが、国有林は協力的です。また昨年私は、森林・林業の長期見通しをで、また昨年私は、森林・林業の長期見通しをで、また昨年私は、森林・林業の長期見通しをで、また昨年私は、森林・林業の長期見通しをで、また昨年私は、森林・林業の長期見通しをなるべく、教育森林にも積極的です。

物知りより自然の中で

それは町のすぐ近くの森の中にコンクリート建光には東京の各区の学校の宿舎があるのですが、議員)の協力を得て日光も調査しましたが、日査しました。東京に近いというので志村さん(評具体的にフィルドを探すためあちらこちらを調具体的にフィルドを探すためあちらこちらを調

れをみて日光はあきらめたのです。あれでは東京にいるのと大して変わらない。あです。夏休みに子供たちが来るのでしょうが、てのアパートみたいな宿舎があるといったもの

私たちは人工を加えないあるがままの自然に接することが大切だとはじめから考えていました。山村にしても子供たちの受け入れのために特別の設備は作らないで、自然そのままを子供特別の設備は作らないで、自然そのままを子供に体験させることが大切だという発想です。リン、冷暖房などといって都会化するのでは何にレ、冷暖房などといって都会化するのでは何にレ、冷暖房などといって都会化するのでは何にして、冷暖房などといって都会化するのでは何に

もともと教育というのは手とり足とり、ハシもともと教育というのは手とり足とり、ハシーもともと教育というのは比較的手が加えられてすね。八ケ岳のこの辺は比較的手が加えられていないし、水源保安林・国定公園として規制されてきたので自然もよく残っている。山小屋もおの姿を残しているものが多いし、しかも場所としては只木先生も言われたように、人材が多としては只木先生も言われたように、人材が多としては只木先生も言われたように、人材が多いのに加えて東京に近くて旅費が少くです。

て欲しい。今の日本の学校教育の最大の欠陥は、うした能力を引き出せるようなリーダーを育て供が自然の中で生活していく中で、おのずから県や木のことを教えるのもいいが、それより子鳥の大のことを教えるのもいいが、それより子鳥の大の工とを教えるのもいいが、それより子ともかく、私たちの理念を受け止めて、参加ともかく、私たちの理念を受け止めて、参加



信州大学教授・八ケ 岳教育森林プロジェ

教育森林の狙いだ。 なっていることでしょう。それを打破するのが 「出来上がった知識をセットで詰めこむ」型に

学ぶことだと思いますね。 森の中に放り出して自然を学ぶ、 教育森林は森の扱い方を覚えるだけで 人間を

然のキャパシテイを知る

みんなトイレだ」と言ったのですが、森林も都 なんです。 るのは、恐る恐る、叱られないかという気持ち 市公園の茂みという感覚なんです。自然に接す 生トイレありませんか」という。「歩道以外は 大学生を山奥に連れていきましたら、「先 都会の子供は都会の発想でしか分から

くなります。 が将来の日本を支えていくのですから、 三分の二は森林です。森林を知らない都会っ子 とも森林教育の大切なことです。日本の国土の 泥まみれになって自然のキャパシテイを知るこ です。自然は遠くから恐る恐る見るものでなく 会の感覚と違う山を見る視点を養うことが必要 然破壊!」という。何日か山で生活をさせ、 「この木は~」と枝を折ると子供たちは だから、 森林を知って貰うことが 恐ろし 自

必要だと思いますね

の中で教えていくことですね。 するやり方だ。そうしたものをのりこえて自然 ぬようにする。『作られた場』の中で森林に接 自然休養林を設定し、トイレを作り、枝を折ら 隅谷 行政も「自然に親しむ」ということで

供たちのリーダーも必要です。 がせると反対の側から研ぐ子もいる。 村の子供でも、親の手伝いで森へ入ることは無 くなり、祖母とテレビを見ている。草刈鎌を研 司会 都会の子供だけではありませんよ。山 山村の子

自然の中で生きる知恵

間の綴り方を読む機会が昔ありましたが、それ りが要らなくなる、耕運機が入り牛馬がいなく を見ても、プロパンガスが家庭に入るとマキ取 ラムも欲しい。 成だから植物・地質・林業・天文などのことを ているのですね。山村の人でも四○歳以下の人 なると草刈が必要なくなる、というわけで、昭和 後について、体で仕事を覚えるようなカリキュ 教えるのも必要ですが、山仕事をしている人の は山の生活の経験が無いでしょう。リーダー養 三〇年代になると子供たちが山に入らなくなっ 「夜明かしの焚火の仕方」なども覚えた方がい 山梨県の山村の子供たちの二〇年位の 「道に迷ったら」「傷の手入れ

ていますからね。 司会 そう、現代文化そのものが自然と離れ 子供だけではなく若い世代も。

> 思われていますが、本来は、森と一緒に生きて 行くのが林業であったはず。 す。林業は木を切って丸太を作ることのように ュラムも考えたいですね。 森と一緒の生活文化が無くなっていま そのようなカリキ

再び乱開発リゾート

れるだけです。 る。森林が破壊され、都会的施設に置き換えら フ場・スキー場・テニスコートが計画されてい 森林は都市と山村を結ぶリゾート、奥山は保安 すが、都市近郊林は都市のリゾートに、 の候補地は六〇箇所ともいわれ、どこでもゴル リゾート法ができて大きな関心を集めてい ―と行政は分けているようですが、リゾート 山村の

これを全国に広げようという思いが国民森林会 れるところですが、教育森林を八ヶ岳に設定し、 設の開発許可を得ている― キー場などに転用された。八四年から転用がま 利用に森林が置き換わったのは年間二万ねに 多い。なんのために山に来たのか分からない。 たいに若者がゾロゾロうろついているところが なレストランやペンションが出来、夏は原宿み る。長野県でもリゾート地域には都会より俗悪 議にはありますが、どう運動を進めたらいいか。 た増え始め、八六年は五○○○㎞がレジャー施 もなるが、そのうち七○○○hがゴルフ場やス 大内 一九七二~三年の土地ブームのころ、 リゾートに入って来る方も都会的セン 受け入れる方も金儲けというのでは困 という動きも心配さ 都市:

る必要があるでしょう。ゴルフ場というのは、○○万㎞もあるのではないですか。すでに一五○○万㎞もあるのに、開発計画はさらに二○○集するとたちどころに一○億円ぐらいは集まるそうだ。ゴルフ場がいかにひどい自然破壊をしまするとたちどころに一○億円ぐらいは集まるそうだ。ゴルフ場がいかにひどい自然破壊をしているかを、もっと声を大きくして国民にがらなこんなリゾートなら、やたらに全国に広がらなこんなリゾートなら、やたらに全国に広がらな

思っています。せいぜい県に二~三箇所。っている。私はリゾートはそんなに必要ないと、「緑色の砂漠」なのです。

外国人に比べて、日本人の自然に接する姿勢外国人に比べて、日本人の自然に接する姿勢が違うことを感じますね。外国人は自然の中に入っていこうという姿勢が強い。日本人は違いたなると、外国人は野尻湖に行く。道の規制もし、粗末な小屋で自然と一体のリゾートを楽しんでいる。最近は、野尻湖も駄目で鬼無里村にんでいる。最近は、野尻湖も駄目で鬼無里村にでも行こうか、といっているそうです。リゾートの鬼が来ない鬼無里に(笑い)。



大 内 先 生 東京大学名誉教授 国民森林会議幹事

森に入るより森を潰す

で行くのは日常化している。 「大学の北村先生(会員)が田舎町のホテルに土大学の北村先生(会員)が田舎町のホテルに土 がいら山を歩くことがレジャーなんです。山形 朝から山を歩くことがレジャーなんです。山形 明から山を歩くことがレジャーなんです。山形 明から山を歩くことがレジャーなんです。山形

ちが良くない。そこから逃げること、それを潰 森に入るのは林業や鉱業の人か信仰を持った人。 すことが文化になった。 帯より盛んだ。こうした地帯差はあるが、日本 山菜・キノコ採りなども関西から南の照葉樹林 るい。山に入りやすいし人間は山を知っている。 して何かを建てることが文化となった。レジャ 母体というべき照葉樹林はジメジメして、気持 山は敬畏すべき対象だったのです。日本文化の ぬ方が良い」という感じなのですね。日本では いう。森林への感覚は「恐ろしいもので、入ら 全体としては照葉樹林帯的発想になって森を潰 「せっかく来たのに子供の遊ぶものがない」と も森を潰して何かを建てることなんですね。 それに比べ、日本では、自然休養林に来て、 長野から北へは落葉樹林帯でカラっとして明

人間の文化と森林を考え

司会 子供の教育だけでなく、日本の文化を

関答 大正以来の森林を考えると、森林経営と労働者のことが中心だった。それに批判が出と労働者のことが中心だった。それに批判が出と労働者のことが中心だった。それに批判が出と労働者のことが中心だった。それに批判が出と労働者のことが中心だった。それに批判が出と労働者のことが中心だった。それに批判が出と労働者の文化の発展の中で、より本質的に森林を考えると、森林経営との考えるかが問われている。

ま本計画は森林を見直すといっているが、読れを踏まえて教育森林を考えることだろう。 れを踏まえて教育森林を考えることだろう。 ま本計画は森林を見直すといっているが、読

只木 森林の大切なことが言われるし、それは分かる。しかし、森林を評価する現実手段は材木の値段しかない。教育森林はどれだけの価値があるか――を知らせないと世間は納得しません。森林にどれだけの経済効果があるか、といわれてもなかなか計算で出せません。木材以外のものの売価を考えて、きょう金銭的なものにはならぬが、将来の役に立つ――との計算はなかなか成り立ちません。レジャーはすぐ計算できますが。教育は計算できない。

只木 金銭的に評価出来ない教育の価値をどでない。人間教育として評価するべきです。教育は人間形成の基本で金銭づくで言えるもの教育は人間形成の基本で金銭づくで言えるもの

う評価するかです。

を作って保水をしたら何十兆円になるといった果を明らかにしようとして、そのかわりにダム大内 農林水産省が、水田や山の水の保全効



松 沢 先 生 森林評論家・八ケ岳 教育森林プロジェク

そのくせ他方では日本人は自然はただだと思てある、ということの方が大切です。うことは、金では表わせない価値が国民にとっの住めない国でしょう。水田や山林があるといの自りしている。しかし、じつはそんな国は人間計算している。

| またような| 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 1

司会 森林は総合的効用を持っている。白書では草津のスキー場のそばに、新しく森を拓いた「音楽の森コース」を作り、冬はスキー、夏た「音楽の森コース」を作り、冬はスキー、夏性化したとある。しかし、現地では、その半面、性化したとある。しかし、現地では、その半面、た「音楽の森コース」を作り、冬はスキー、夏な林が切られて風下の集落が風対策で何とかしたくれ、という状況だ。活性化とマイナス面もなれてやることが必要だ。森の中で生活する技術だけでなく、森が生活に及ぼす影響を子供がある教育森林でありたい。

新たな視点で森林見よ

最後に、国民森林会議の基本的課題が隅谷会

か述べて頂きたい。 長からふれられたが、どう今後活動していくの

だと思ってきた。しかしこの辺でもう一度生態 中で生きていくしかないことを忘れてはいけな だと思う。 的に確保していくこと、それが教育森林の役割 を加えるな」というのは間違いだと思うが、 ナチュナリストのように「一木一草切るな」「手 を位置付ける必要があるのではないか。一部の るか、を反省し、その循環の一環として自分達 系のバラスというのはどういう意味を持ってい つぎつぎ人工的な施設を加えて、それが豊かさ 人は、土も要らないなどといっている。 い。今では農業でさえ薬浸け、 っ走ってきた。しかし人間は動物であり自然の た。日本は明治以降とくに戦後はその思想で突 て、それによって人間が豊かになると信じてき を子供に意識させ、自然の生態系の維持を永続 れを上手に使い豊かに再生させることの重要性 かし自然のキャパシティーを十分に計量し、 大内 近代文明というのは結局生態系を壊し 油浸けで極端な 山にも そ

(株業に関心のある団体がいくつも出来た。自然保 を方面にわたった。森林は多面性があって、いる を方面にわたった。森林は多面性があって、い たんな立場から発言がある。国民森林会議は包 たのてきて、今たどり着いたのは、いろんな立 は包 がいてきて、今たどり着いたのは、いろんな立 としてきた。六年 がいくつも出来た。自 にないのある団体がいくつも出来た。自 のないのある団体がいくつも出来た。自

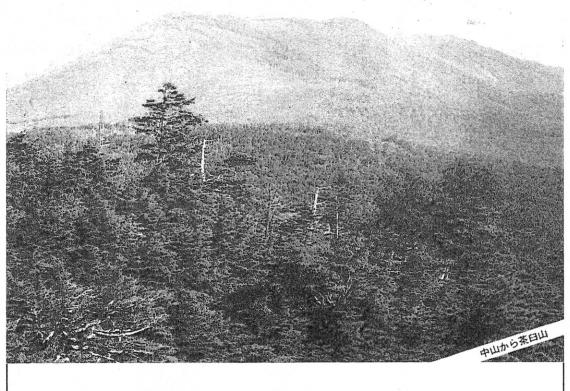
ないだろうか。

学を教えることが出来れば、と思う。えるとともに、森林の基本的なもの、森林の哲けをとらえて教える。地質・花・樹のことも教うか、というのでなく、基本的な森林の位置付うが、というのでなる。

日本型の発想産もう

関でも「日本型の自然保護がある」と言うこと ンスーン地帯の日本だから放って置いても野 となれ」という言葉が日本にはありますが、モ 西欧と違って良いはずです。 日本の森林の扱いかた、生活・教育のあり方は 方が先進的と思っているが、夏暑く、 るべきだと思う。 ヨーロッパ・アメリカではこうはなりません。 議の役目があります。 そこに日本のシンクタンクとしての国民森林会 ものの考え方を森林を通じてどう発想するか、 で、今後検討をすることになったが、日本的な 只木 林業と自然保護を考える林野庁長官の諮問機 (草原)になり山(森林)になる。乾燥地の 教育森林は日本的な考えがあってしか ヨーロッパ・アメリカのやり 「後は野となれ山 雨の多い

とうございました。 (八ケ岳・唐沢鉱泉にて) るため努力を続けたい。きょうは長い間ありが森林会議の目指すことを教育森林の中で実現す 出す。教育森林で教えることでそれを具現化す出す。教育森林で教えるととでそれを具現化す



<国民森林会議がカリキュラム設定・講師派遣>

自然と森の学校 八ヶ岳教室

緑や森林に関心のある方に参加をおすすめください。

▒第2回 高山植物の花に親しむ

7月2日(土) —3日(日)

硫黄岳山荘

高山植物の観察

講師 長野県林業総合センター

大木正夫氏

小松山荘

※第3回

9月17日 (土) —18日 (日) **"きのこ** いろいろ

森林生態系と菌類・きのこの見分け方・採取

料理·貯蔵方法

集 要 領△

<参加費>一万五〇〇〇円(一泊二食分、講師料・保険料など ふくむ)五○○○円は前納(保険料など)

〈現地集合〉

<募集人員>一クラク二○人の単位で募集

〈申 込 先〉茅野市宮川一一三一八・米川正利

(D10266-72-3613)

後援—茅野市

口神山地を考える会」の発足

―地域で考えたこと―

野

添

憲

治



八四年度は七六〇〇万円(一・二三書、秋田県田県側一・三二書、青森県側〇・七五書)、一九八三年度は一億二三〇〇万円で二・〇七書(秋田県側一・五四書、青森県側〇・八四書)、一九田県側一・五四書、青森県側〇・八四書(秋度は一億二六九二万八〇〇〇円で二・三八書(秋度は一億二六九二万八〇〇〇円で二・三八書(秋田県側一・五四書)

ブナ原生林に林道計画

林野庁は留保することを四月八日に決定した。 中止を求めて活発に動きはじめ、一九八八年度 県側が知事を先頭に慎重姿勢を強めるようにな の、これを機にもう一方の事業主体である青森 これでも秋田県側の推進姿勢は変わらないもの 埋もれることもあって、工事を断念した。だが、 はわが国の林政史上では最大規模で、その審査 通の異議意見書を提出したが、この意見書の数 ところが、両県の自然保護団体は約一万三〇〇 側の国有林内の開設工事にはいる予定だった。 解除を農水省から受け、分岐点を越えて青森県 県西津軽郡鰺ケ沢町の水源かん養保安林の指定 に八森町内の工事を終え、一九八七年から青森 事をおこなった。秋田県側は一九八六年度まで 年度は秋田県側が一・一きを六八五〇万円で工 側〇・五四㌔、青森県側〇・六九㌔)、一九八五 の林道工事関連予算(四二〇〇万円)の執行を に長期間費すことから、県では現地が厚い雪に 工事が自町にはいる鰺ケ沢町民は事業凍結

地元で〝考える会〟を



うになった 移り住むよ

人たちから 緒にやろ

身でない人 に能代市出 ているうち

能代に

埋めた参加者

うという声 をつくった。 ンフレット がでて、次 のようなパ

(仮称) 発会への協力のお願い 白神山地を考える能代の会

とき、 キー、あるいは山の幸を求めて、白神山地に足 を踏み入れます。そして、能代から北を眺める 野を豊かにし、また多くの人びとは登山や山ス 恵みを与え、能代市民にとってはかけがえのな に潤いを与えてくれます。 い自然です。この地域より流れ出る水は能代平 白神山地は能代市に住むわたしたちに多くの 美しく連なる山なみは、 わたしたちの心

とで、 知り、 たからです。 開催などの活動していく会をつくりたいと考え その裾野で生活する能代市の中に白神山地を見 シンポジウム、現地観察会などの催し物の企画 ていくことを主目的として、学習会、 この白神山地が全国的に注目を集めている今 白神山地について市民の方々と共に考え そして語る会の必要性を感じました。 講演会、 (略 そ

とか動きたいと考えたものの、

なかなか賛同者

かった。だ

は得られな

が、そうし

てくるのを避けようとする姿勢からきているの

直接に自分の身にも火の粉がふりかかっ

わたしもこれではいけないと考えて何ん

れなかった。いずれの立場をとるかを明確にす 地元の人ではなく、反対集会なども地元で開か 同者は地元の人たちなのにくらべて、自然保護

林道は山奥へと伸びているのに、林道開設の賛

の立場から林道建設の中止を訴えるのは大半が

題を長期間にわたって論議され、しかも現実に

全国に伝えられた。しかし、

きわめて貴重な問

は長い期間にわたり、さまざまな動きとなって

このように、白神山地や青秋林道をめぐって

対の両意見が多く出されたが、最後にわたしが、 この時の意見交換でも、青秋林道には賛成、反 けたが、この時で会員は五四人だった。それで 多かった。それでも一九八七年一二月四日に設 事前に考えていたように難しく、関心は持って 少数の賛同者と一緒にパンフレットを持って、 は四二人が能代市中央公民館に集まってくれた。 も準備会の時は一四人の出席だったが、総会に 立準備会を開き、一七日には設立総会にこぎつ いるが会員に名前はつらねたくないという人が 会員になってくれそうな人をたずねた。やはり、 発起人はわたしを入れて三人だけだったが、

> 町の人たちも、自然保護の立場にいる人たちも りして、この種の運動の難しさを知らされた。 対の団体にするんだろうという電話がはいった ないと言ってくるし、 代の会』とした。しかし、なんとかして発足は 同じテーマについて勉強し、 からといって対立し、そこから一歩も進もうと え方のニュウアンスが違うが、これまでは違う と鰺ケ沢町、それに藤里町とか能代市ではとら ない問題だが、同じ地元とはいっても、八森町 したものの、反対派からは両立なんか考えられ きたい」と結び、名称も『白神山地を考える能 しながら出発点にするとともに、推進派の八森 しなかった。そうではなく、違うことを大切に 「白神山地を考える時に青秋林道はさけて通れ 推進派からはいずれは反 意見交換をしてい

ためらう推進派 の参加

代の会が最初に取り組んだ事業が、 べてもらうとともに、林道の開設と過疎からの らも出席してもらい、過疎の苦しみを率直に述 カッションだった。推進派といわれる八森町か 調講演「白神山地の自然」牧田肇弘前大学教 山地シンポジウム』であった。わたしたちがた と地域の生活を考える」をテーマとした『白神 の会の特長を生かそうとしたのがパネルディス た。このなかでとくに力をいれたし、また能代 てた計画は、⑴白神山地のスライド上映、⑵基 このようにして発足した白神山地を考える能 (3)パネルディスカッションの三本柱であっ 「白神山地

題になると町民が貝のようになってしまう意味 を知らされ、 含めながら堂々と主張が出来ない面もあること はだしてもらえなかった。何度も足を運んだの ばいいのにと思う一方では、政治的なからみも た。こうした機会にどしどし出席して発言すれ 解は示してくれたものの、結局は町から出席者 ら説得にかかった。しかし、 るような運営は決してとらないと、まず町長か いう返事をもらうまでに、これも時間がかかっ 二人とも三〇台の若者だが、出席してもいいと こつから、 青秋林道建設を促進する会と八森町を興す会の の反対派の集会のように、推進派を吊るし上げ 脱却のつながらりを発言して欲しい。これまで 少しは理解することが出来た。 ―。だが、それでも諦めがつかないので、 会長に出席してもらうことになった。 複雑な思いになったほか、この問 町側でも一定の理

この他の準備も、また大変であった。カネはないので、一枚五〇〇円の入場整理券をつくり、まないので、一枚五〇〇円の入場整理券をつくり、はいので、一枚五〇〇円の入場整理券をつくり、は近によってで賛成、反対を述べ合い、お互いのじテーブルで賛成、反対を述べ合い、お互いのじテーブルで賛成、反対を述べ合い、お互いのじテーブルで賛成、反対を述べ合い、お互いので、一枚五〇〇円の入場整理券をつくり、計算のに対しては今回の会がはじめてだったので、新聞やテレビなどが大きく取り上げてくれたため、さまざまな形で幸いした。

場の能代市文化会館中ホールには、約三五○人一九八八年二月二○日午後一時になると、会

はりマスコミのおかげだった。てきたが、当日売りが非常に多かったのは、やほかに、秋田市や弘前市などの遠くからもやっを超える人たちが詰めかけた。能代市山本郡の

過疎救済か保護かで

スライドを上映した秋田県自然保護協会の工のようでは、自然保護と地域振興の両立試案も示ら、「白神山地のブナ原生林を無傷で残しながら、「白神山地のブナ原生林を無傷で残しながら、「白神山地のブナ原生林を無傷で残しながら、「白神山地のガナ原生林を無傷が残しながら、「白神山地の自然を紹介しながら、「白神山地の対けたが田県自然保護協会の工

述べた。

成いて引前大学の牧田肇教授が「白神山地の自然に守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然には守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然には守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然には守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然には守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然には守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然には守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然に守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然に守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然に守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然に守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然に守っていきたい」と、スライドで白神山地の自然に対けていきたい」と、スライドで白神山地の自然に対けていきたい」と、スライドで白神山地の自然に対けていきたい」と、スライドで白神山地の自然に対している。

たしが司会を担当したが、最初は一分間ずつ自善さらにメーンのパネルディスカッションはわ

内容をごく簡単にまとめてみる。 内容をごく簡単にまとめてみる。 内容をごく簡単にまとめてみる。 内容をごく簡単にませる。 それから一時間をとる たと少ない人とがあって、トラブルの起こる原 が三分ずつ感想を述べるというように、パラーが三分ずつ感想を述べるというように、パラーが三分で補足説明をする。それから一時間をとる がの三分で補足説明をする。それから一時間を とのこ分で補足説明をする。 では多く時間をとる がったのも、このような会では多く時間をとる がったのも、このような会では多く時間をとる がったのも、このような会では多く時間をとる がったのも、とのような会では多く時間をとる というように、その というなった。次に、発言の というように、パラーが三分で補足説明をする。 というように、パラーが三分で補足説明をする。

流れるのを期待する」と述べた。

「八森町は四○年間に人口が九○○○人かは、「八森町は四○年間に人口が九○○○人かは、「八森町は四○年間に人口が九○○○人かは、「八森町は四○年間に人口が九○○○人かは、「八森町は四○年間に人口が九○○○人かは、「八森町は四○年間に人口が九○○○人かは、「八森町は四○年間に人口が九○○○人かは、「八森町は四○年間に人口が九谷のを期待する」と述べた。

続いて、日本渓流釣り連盟会員の小野新栄され、「マタギと釣り人が知っている白神山地は、静かで優しい山であった。最近は林道が建され、ブナが伐採されてから、下流に住む魚が少なくなっている。自然の回復力より強く人の手が加わると、生態系全体のバランスが崩れるので、そのようにしてはいけない」と述べた。高ので、そのようにしてはいけない」と述べた。高ので、そのようにしてはいけない」と述べた。高ので、そのようにしてはいけない」と述べた。自然の破壊者のように言われるのは心外である。自然の破壊者のように言われるのは心外である。自然の破壊者のように言われるのは心外である。自然の破壊者のように言われるのは心外である。自然の破壊者のように言われるのは心外である。

終わった。

総わった。

がおった。

がおった。

がおいて、秋田県自然保護指導員の鎌田孝一さんけ、「能代市山本郡に住む人たちは、昔からら神山地から流れる水に依存してきた。いま、白神山地から流れる水に依存してきた。いま、白神山地から流れる水に依存してきた。いま、治がで、秋田県自然保護指導員の鎌田孝一されて、秋田県自然保護指導員の鎌田孝一されて、秋田県自然保護指導員の鎌田孝一されて、秋田県自然保護指導員の鎌田孝一されている。

振興と保護』は共存

疑問をなげかける多くの意見が出た。の意見交換は、予想していたように白熱化した。の意見交換は、予想していたように白熱化した。の意見交換は、予想していたように白熱化した。の意見交換は、予想していたように白熱化した。のであるとを受けておこなわれた一般参加者とこのあとを受けておこなわれた一般参加者と

場から拍手がわいた。

場から拍手がわいた。

場から拍手がわいた。

場から拍手がわいた。

場から拍手がわいた。

場から拍手がわいた。

場から拍手がわいた。

また、推進派のパネリストの佐藤さんが、

「林道を通すと、子孫に残せる夢を持てる」と 発言したのに対し、青森県から参加した人たち から、「八森の夢のために、青森県側の住民の 生活が犠牲になっていいのか」「水源かん養保 生活が犠牲になっていいのか」「水源かん養保 安林が伐られようとしている青森の人たちは、 不安になって反対している」と質問が続いたの に、佐藤さんは「青森の住民がすべて犠牲にな るようなオーバーな言い方は、やめて欲しい」 と反論したのを受けて鈴木さんが、「保護と開 発は平行線をたどるが、最後にはやっぱり頭を 下げても、林道の建設はお願いしたい」と、理 解を求めていた。

材であり、市民レベルのシンポジウムの一つの るような方策は考えられないか」という提案も 施設や白神山地の自然を研究する施設を誘致す 保護は共存し得るのでその方向にいったらどう は、 それだけに、二人が責められるようになったの と居直るのに対して、反対派は具体的な数字や 調で語ってみたり、お前も過疎地に住んでみろ あったが、これなどは十分に検討していける素 なく、いままでに完成した道路を利用し、観光 か」とか、「八森町の振興は林道建設の形では かでは、「開発と保護は相容れないが、振興と 発言されると予想される資料はほとんど届けて の二人のパネリストには、おそらくこの会場で かやりやれない気持ちになったりした。八森町 実例をあげながら説明するのを聴いて、 あるのに、一読もしてこないのを知ったからだ。 わたしは会を進めながら、推進派が夢を哀願 なんとも残念であった。しかし、討議のな いちち

のあるシンポジウムのやり方を模索していきた中である。それを土台にしながら、次回の実り会ではこのシンポジウムの全記録集をいま作成営その他について意見が寄せられたが、能代の成果だとみていいだろう。また、閉会後も、運成果だとみていいだろう。また、閉会後も、運

考える素材、今後も提供

考え、討論し、実行していくようにしたい。 く白神山地に対して、わたしたちはいったい何 うやく一○○人を超したというように、歩みは もう二回実施することにしているが、会員もよ を超える参加者があった。現地観察会は年内に いう第一回現地観察会をおこなったが、五〇人 で行き、そこから二ツ森(一〇八六)に登ると 二九日には、青秋林道の終点までマイクロバス 映と、阿仁マタギから話を聞いた。そして五月 せたほか、「白神山地のクマゲラ」のビデオ放 た仔グマを二頭借りてきて子どもたちに触れさ では、五月二一日に同じ会場で、「森の詩っこ をしなければいけないかを、地域住民と一緒に 白神山地、またこれからも恩恵を受け続けてい くとも、自分たちがこれまで恩恵を受けてきた 決して早いものではない。しかし、歩みはのろ ―ブナ林の恵みと動物たち―」を開いた。生き これに引き続いて白神山地を考える能代の会

(能代市在住・評論家=会員)

森林フォーラムを見る



林フォーラン四月二四日、東京当日は多

妻村で開かれ、四○○人の家族づれでにぎわい 番下、高尾山自然休

八王子森林フォーラム

を地で行なわれるものの一環として開催された ③山村住民と都市住民の交流を強める④多くの人 が討論しあい森林・林業の発展を期す、など「森 が討論しあい森林・林業の発展を期す、など「森 がさいてする②育てる人間の役割を明らかにする らかにする②育てる人間の役割を明らかにする

●森林の総合的な機能をいっそう明らかにしていくために
 ●森林の総合的な機能をいっそう明らかにしていくために
 ●山村住民、自然を愛する都市々民、林業労働者が討論し智恵を出しあう共通の場の創造を――というスローガンを掲げた「窓森林フォーラム」がスタートしました。一六人の実行委員のうち九人が国民森が会議の会員というこのフォーラムは、都市と山村を結び、森林、林業のあり方を現地から追求しようという試み。すでに始まった各地のフォーラムを追ってみました。

午前一○時の開会式には約四○○人が集まりまがス五台などに分乗した家族づれが続々集合。バス五台などに分乗した家族づれが続々集合。当日は多少肌寒かったものの天候には恵まれ、

環境は厳しい。都市住民の理解を」とのべ、黒水問題を考えるため企画した。今日一日、元気体問題を考えるため企画した。今日一日、元気林問題を考えるため企画した。今日一日、元気が沢林野庁業務部長は「森林・林業を取りまくの人が集まって、困難な問題を抱えている森が別様を表している。本林フォーラム実行委員あいさつに立った、森林フォーラム実行委員

<森林フォーラム実行委員会>

義人・森厳夫・湯川豊・森田稲子武史・富山和子・堂本暁子・藤本昌也・本間弁弘。 加藤 幸子・木原啓吉・杉本一・土田秋山紀子・畦倉実・猪爪範子・内山節・加倉

<88森林フォーラムの企画>

6月19日 秩父森林フォーラム 7月23・24日 上野村森林フォーラム 自然・村人をたずねる旅 生と湖と原生林の旅

11月7・8日 東京フォーラム

21世紀にむけて『自然保護と林業』のあり

方。森林と人間の共生について各地の報告

をもとに全国連続討論会を開催する予定。

<参加者の声>

▽八王子フォーラム△

Ò

見なると、などの音が見られていました。 ぞれの立場からその重要性を訴えました。 値樹をするため張り切って参加した」と、それ川総評議長は「森林の果す役割は大きい。私も

開会式後、全参加者が直ちにスギ苗三○○本 開会の中で、家族でていねいに一本一本植え込 がいで参加者らは「石が多くて掘れない」 「この木は大木に育つかな」などなごやかな雰 は、次いで参加者らは「石が多くて掘れない」 がました。

明るい喚声がこだましていました。
「森林観察」「巣箱づくり」「炭焼き観察」「丸伝切り」や「ニジマスのつかみどり」など六つ太切り」や「ニジマスのつかみどり」など六つ大切り」や「ニジマスのつかみどり」「炭焼き観察」「丸

奥多摩森林フォーラムも雨粒の落ちそうな五月二三日、今に

かり。 コックにヤッケ、足ごしらえも厳重な人たちばコックにヤッケ、足ごしらえも厳重な人たちばさすが、山を探索したい希望者だけあって、リJR塩山駅(山梨県)に集まったのは五○人。

けました。

がスのなかでは、事務局の説明に続いて、同がよりながでは、事務局の説明を受けます。長年取材に通った水源林林の説明を受けます。長年取材に通った水源林林の説明を受けます。長年取材に通った水源林林の説明を受けます。長年取材に通った水源林林の説明を受けます。長年取材に通った水源林が、の担当者から、水源林の歴史と経営の説明を続いて、同バスのなかでは、事務局の説明に続いて、同いました。

ましたが、一同はブナやナラの繁る天然林に入ての頃から雨が落ち初め、もやが掛かってき

「すごく大きなブナだね」などの会話も弾みま花も咲いています。「これなんという花かしら」ない世界。小鳥がさえずり、ツッジや名もないない世界。回道を少し入っただけでまるで騒音のります。国道を少し入っただけでまるで騒音の

大正四年にカラマツを植え、六年後にヒノキを植えたものが見上げるように成長した林のなどがります。「こうした巣箱をつくってくれる子性が掛けた巣箱から小鳥が顔を出し、喚声も上がります。「こうした巣箱をつくってくれる子供も減りました」と過疎に眉を曇らせる係員。株道の下からしみでる水に「これが水源だね」を植え、六年後にヒノキの声も。

塩山駅で散会しました。 年後三時半、次のフォーラムでの再会を約して 立上る山水画の世界のような情景にも接して、 立上る山水画の世界のような情景にも接して、 が植え込まれています。渓谷から峰にかけ霧が がを す。天然林といっても、きめ細かくヒノキなど す。天然林といっても、きめ細かくヒノキなど

と聞きます。何とか守らなければと考えます。常に良かったと思います。森林が荒れている自然の中で木々とかかわりをもつことは非

ひとつがかわいらしく見えました。 自分の植えた木が大きくなると思うと一つしはわかったようです(板橋区 山口幸子)云ったのには驚きました。木を育てる意味が少云ったのには驚きました。

▽奥多摩フォーラム△

働いて下さる方に感謝します。大切さ、そしてそれを保存するために黙々と都会に住んでいると分らない森や村や川の(国分寺市)市村忠文)

(杉並区 池田恒子)

森と木のある生活⑥

森林の中で育てる山蚕

家蚕と異なる山蚕



催されている博覧会のテーマはシルクロードで関心は低下していない。シルクハットやモーニ関心は低下していない。シルクハットやモーニ対になっている。ヨーロッパ人や日本人は、こめ絹に対して限りない愛着を抱いているため、の絹に対して限りない愛着を抱いているため、の絹に対して限りない愛着を抱いているため、の絹に対して限りない愛着を抱いているため、その旅に訪れる人が多い。またいま奈良市で開やなどの晴着は、洋の東西を問わず、絹が素ともに大きく発展して、天然繊維、特に絹の需要は大幅に減った。というなどの様に対しているは、

マンを海外までPRしている。東西に走る絹貿国ではこの外来語と絲網之道といって、そのロnstrasseと記るしたことから普及した。現代中あるリヒトフォーヘンで、一八七六年に Seide-との絹街道の命名は、ドイツ人の地質学者で

であったかを示している。 の路は、古代からいかに絹が魅力のあるもの

は劣っている。

おが国の蚕糸業は、江戸中期まで後進国で、中国や朝鮮から絹を輸入する有様であったが、中国や朝鮮から絹を輸入する有様であったが、中国や朝鮮から絹を輸入する有様であったが、中国や朝鮮から絹を輸入する有様であったが、中国や朝鮮から絹を輸入する有様であったが、中国や朝鮮から絹を輸入する有様であったが、中国や朝鮮から絹を輸入する有様であったが、中国や朝鮮から絹を輸入する方法を表しているが、耐久性という点では劣っている。

いる。

呼んでいる。山林や平地林で飼われているからして、天蚕や柞蚕などを山蚕、もしくは野蚕と養蚕農家が屋内で飼育している「家蚕」に対

市川健夫

(東京学芸大学教授)

だ。天蚕と柞蚕は、昆虫学の分類のうえでは、た。天蚕と柞蚕は、昆虫学の分類のうえでは、五月上旬から中旬にかけて孵化し、五〇~六〇日間に四回ほど休眠して、七月上旬に繭をつくる。幼虫はクヌギ・コナラ・カシワなど落葉広葉樹の葉を食べて、短期間に成長する。孵化時葉樹の葉を食べて、短期間に成長する。孵化時葉樹の葉を食べて、短期間に成長する。孵化時類のみは一~二齢には褐色であるが、次第には一七グラムになる。天蚕の体色は緑色で、の、クヌギなどの飼育林とまったく同色のため、クヌギなどの飼育林とまったく同色のため、ため、クヌギなどの飼育林とまったく同色のため、ため、クヌギなどの飼育林とまったく同色のため、からりなどの天敵から身を守るのは防護手段になってなどの天敵から身を守るのは防護手段になっている。

天蚕の繭の長さは四・八センチ、幅・五センり少ない。

八月上旬から一〇月下旬にかけて、繭殻を破

はそのまま越冬し、春になると孵化する。のた蛾は交尾して、籠の竹ヒゴに産卵する。卵で密封し、連るしておくと、この中で成虫にな雌雄一つがえずつ、小さな籠に入れて入口を紙雌は一つがえずる。飼育している天蚕蛾は、

山繭糸のもつ特質



天蚕など山繭の第一の特色は、不染性の繊維天蚕など山繭の第一の特色は、不染性の繊維

という。

これを防ぐので、各地で武士たちに愛用された

での後染めの織物のほか、先染めの縞織・刺るの後染めの織物にも、山繭糸が使われるが、山蚕糸のうち、天蚕糸は不染性が最も強く、国産の柞蚕糸、中国産柞蚕糸がこれに次いでいる。したがって天蚕糸の価格は高く、家蚕糸のる。したがって天蚕糸の価格は高く、家蚕糸のこっている。

山繭糸の第二の特色は、生糸に比較して太く、

強靱で弾力性があり、刀剣で切られても滑って、 大蚕糸で織った紬は、親子孫三代にわたって着られるほど、耐久性が強い。そこで大正時代日本の飛行機の翼には天蚕紬が使用されていた。 当時の飛行機は木製で、なるべく軽い方がよいので、天蚕紬の布が張られたのである。 てのほか、天蚕糸は軽くて柔らかく、織物にしても皺にならない。そのうえ、保温性が強いなど、繊維としていくつかの利点を備えている。 大蚕糸を使用した紬織りは、奈良時代から行われていた。しかし量産された歴史は新しく、 大蚕糸を使用した紬織りは、奈良時代から行われていた。しかし量産された歴史は新しく、 大蚕糸を使用した紬織りは、奈良時代から行われていた。しかし量産された歴史は新しく、 本の初期、享保年間から天蚕糸を使った紬が織られるようになった。ここで生産された可部紬は

一八四三年(天保一四)のころから、美濃国 一八四三年(天保一四)のころから、美濃国 一八四三年(天保一四)のころから、美濃国 一八四三年(天保一四)のころから京都府 をらに一八九七年(明治三〇)ごろから京都府 の丹後地方や京都市の西陣で、天蚕糸を用いた 所、単独で織物にされることはあまりなかった。 天蚕糸が高価のため、高貴な方への献上品を除 大蚕糸が高価のため、高貴な方への献上品を除 ためった。そこで生糸と交織して、縮緬・帯地 なかった。そこで生糸と交織して、縮緬・帯地

城町、東京府八王子市、新潟県十日町、滋賀県丹後や西陣のほか、群馬県桐生市、茨城県結

織られていた。 長浜町などでも、天蚕糸を混織した紬や縮緬が

濃尾では内需向けを生産していた。 アメリカ・イギリス・フランスなどへ輸出し、 その主産地は福井地方と濃尾地方で、福井では に満州(現中国東北区)産の柞蚕糸を用いた。 柞蚕糸のみを原料とする織物を絹紬といい主

三〇〇〇年の人工飼育



では、年によっては天蚕が大発生して、繭を採むとられなくなった。しかし、福井県あたり葉樹林が減ったため現在天産の天蚕繭は、ほと戦後、労賃が高騰したこと、天蚕が好む落葉広を右されるので、豊凶率がきわめて大きかった。をの年の気象条件によって、天蚕の発生や成育がたったのぼる天然産の天蚕繭が採取されていた。その年の気象条件によって、天蚕の発生や成育がが送。労賃が高騰したこと、天蚕が好む落葉広が後、労賃が高騰したこと、天蚕が好む落葉広では、年によっては天蚕が大発生して、繭を採取することもあるという。

明治政府は、当時蚕種・生糸・茶とともに天二〇〇~三〇〇万粒の天蚕繭を収穫していた。まる。幕末の安政年間(一八五四年どろ)にはまる。幕末の安政年間(一八五四年どろ)にはまる。幕本の安政年間(一八五四年どろ)には天蚕の人工飼育は、天明年間(一七八一~八天蚕の人工飼育は、天明年間(一七八一~八

亜糸が有力な輸出品であったので、殖産興業の 一つとして天蚕飼育を取りあげた。一八七二年 (明治五)大蔵省は、天蚕の飼育法・採取法・ 以糸法を記るした『山蚕養法告諭書』を頌布し で、天蚕の生産を奨励した。さらに政府は下総 国小金原に天蚕飼育伝習所を設け、全国から関 国小金原に天蚕飼育伝習所を設け、全国から関 国中金原に天蚕飼育法を伝授した。その結果、 宮城・山形・茨城・栃木・群馬・新潟・富山・ 長庫・鳥取・島根・高知・大分・佐賀などの諸 県で、天蚕の飼育が始められた。しかし、天蚕 園育が難しいので、その後原産地の長野県と関 東の茨城・栃木両県で主として営まれるにすぎ なくなった。

飼育がなされた。 飼育がなされた。 飼育がなされた。 飼育がなされた。 一国原産の柞蚕飼育は、北海道開拓使長官黒中国原産の柞蚕飼育は、北海道開拓使長官黒

平地林で飼われた天柞蚕



に植栽された林であることを示している。天作クヌギが幾何学的に整然と並んでおり、人工的ール以上の天柞蚕の飼育林があった。ここではた長野県安曇野には、かつて三、○○○ヘクタ第二次大戦前まで、天柞蚕飼育が盛んであっ

にこの木が植えられている。ヌギが最も適することから、人工飼育林には主蚕は落葉広葉樹なら大抵のものを食べるが、ク

繭などの作業を便利にしている。 繭などの作業を便利にしている。

林に天蚕種五合(六万五、○○○粒)程度が適一株に一~三枚程度、平均すると一町歩の飼育をさけて、北向きあるいは下向きに結びつける。蚕種のついた和紙を、飼育林の枝に直射日光

ALC: N

A STATE

1

れる。の種付けは、二・五人ぐらいの労力でまかなわ当とされている。この作業は能率的で、一町歩

り手間がかからない。

り手間がかからない。

山付けされた蚕種は、二~三日後に孵化し、
山付けされた蚕種は、二~三日後に孵化し、

天柞蚕は繭をつくって、七、八日ほどで蛹にてか見分けがつかない。

山付けと収繭、飼育林の管理のみという天作をれてカエルなどと数が実に多い。

による天柞蚕の病害が比較的軽い。 天柞蚕は、微粒子病・饗蛆病・膿病・軟化病 気候環境を好む。松本の五~七月の降水量は内 気候環境を好む。松本の五~七月の降水量は内 気候環境を好む。松本の五~七月の降水量は内 など、家蚕と同じ病気にかかりやすい。天柞蚕 など、家蚕と同じ病気にかかりやすい。天柞蚕 など、家蚕と同じ病気にかかりやすい。天柞蚕

しかし適地といわれる安曇野でさえ、天柞蚕

ぎなかったといわれている。 の生産はきわめて不安定なものである。「山蚕飼いと味噌汁とは当った試しなし」、「山蚕飼いは博打うちか」、「山蚕飼いだということを示している。これは天柞蚕の飼育は病虫害による豊凶が大きく、その経営が投機的だということを示している。天蚕の核心地、穂高町有明には二○○戸のる。天蚕の核心地、穂高町有明には二○○戸のる。天蚕の核心地、穂高町有明には二○○戸のる。天蚕の核心地、神高町有明には二○○戸のる。で山蚕の生産はきわめて不安定なものである。「山蚕の生産はきわめて不安定なものである。「山蚕の生産はきわめて不安定なものである。「山蚕の生産はきわめて不安定なものである。「山蚕の生産はきわめて不安定なものである。「山蚕

安曇野では北アルプスから流出する諸河川がなる。大きな役割を果している。

○万粒の天柞蚕を生産するようになった。治二○)から一八九七年までが全盛期であった。由なう降灰と病害の蔓延で衰退した。しかし大もなう降灰と病害の蔓延で衰退した。しかし大明治三○年代から末にかけて、焼岳の爆発にと明治三○年代から末にかけて、焼岳の爆発にと明治三○年代から末にかけて、焼岳の爆発にと明治三○万粒の天柞蚕を生産するようになった。

天蚕による村おこし



るが、それでも相当の収益になる。 を考慮すれば、実収益はさらに高まることにな の計算はかなり雑で、飼育林・防鳥施設の償却 引き二〇万二、四〇〇円の純益が得られる。と 収入は一粒一〇〇円で四〇万円となるので、差 九万七、六〇〇円である。これに対して繭の粗 九、九〇〇円、飼育管理費七、七〇〇円、計一 をみると、飼育林造成二万円、防鳥施設一六万 七四年の天蚕飼育の一〇アール当り生産費調査 さえ駆除すれば、一〇アール当り蚕種を一万三、 による食害がないので、 る方法がとられている。 網をかけたパイプハウスの中で、天蚕を飼育す 大の課題になっている。そこでビニールの防除 ふえて、これをいかに防除するかが飼育上の最 減少すると、天蚕に対する天敵の量が相対的に より、天柞蚕の飼育は大幅に減った。飼育林が ○○粒の繭を収穫することが可能である。一九 ○○○粒ほど山付けして、三、○○○~四、○ 現在天蚕の繭価は下って六〇~七〇円であ 第二次大戦後、 飼育林の開田や別荘地化に ハチやクモなどの害虫 ハウスの内部では野鳥

育農家で生産された繭は試験地に送られて採卵は天柞蚕の種を農家に無償で交付している。飼験地があり、天柞蚕種を保存している。ことで穂高町有明には、長野県蚕業試験場天柞蚕試

方式をとっている。されるが、その出殻繭は生産農家に還元される

穂高町では町づくりの柱の一つに天蚕飼育を をがいてもなっている。水上勉の『有明物語』 た。これは天蚕の飼育、製糸、織布に関する博 が館である。ここには京都西陣で織られた「天 をが頭し承華縮緬」が展示されているが、それ は見学者の目を奪うばかりの美しさである。ま た天蚕飼育は水田の転作として、老人たちの生 た天蚕飼育は水田の転作として、老人たちの生 をがいにもなっている。水上勉の『有明物語』 にも出てくる天蚕糸を交織した有明紬は、ワサ にも出てくる天蚕糸を交織した有明紬は、ワサ にも出てくる天蚕糸を交織した有明紬は、ワサ にも出てくる天蚕糸を交織した有明紬は、ワサ にも出てくる天蚕糸を交織した有明紬は、ワサ

高級織物を生産している。しかし、海南島で飼育と内でも天蚕を飼育している。西陣や桐生の機業前の周時代から始められ、現在でも遼東半島や中国における柞蚕飼育している農家がある。中国における柞蚕飼育している農家がある。年間でも天蚕を飼われており、また八王子市堀之内でも天蚕を飼われており、また八王子市堀之内でも天蚕を飼われており、また八王子市堀之内でも天蚕を飼われており、天蚕飼育と天蚕紬岐阜県恵那郡川上村でも、天蚕飼育と天蚕紬

の面からも、再評価すべきものと思われる。れば発展しており、わが国でも森林の有効利用ている。以上のように山蚕飼育は、世界的にみが飼育されており、着尺地・法衣などに織られインドの東部やタイの北部でも、大量に柞蚕

まれる。

育されていた楓蚕が、解放後衰滅したことは惜

林政の転換期に思う

術の見直しから転換を

てい二年ほどの間、転換期の林政についてのこの二年ほどの間、転換期の林政についての大林政部を、国産材で賄う「国産材にである。一千世紀がの人工林ができたが、これを二十一世紀初度で、国内の木材需要の主たる部分を、国産材で賄う「国産材時代」にどうつなぐかが、まさに転換期林政の課題である。

不安定な価格競争下におかれている)に使い、 大のが、林政審報告の「森林整備方針の転換」 たのが、林政審報告の「森林整備方針の転換」 たのが、林政審報告の「森林整備方針の転換」 たのが、林政審報告の「森林整備方針の転換」 たのが、林政審報告の「森林整備方針の転換」 たのが、林政審報告の「森林整備方針の転換」

) [(

ろう。る、拡大造林中心の時代は終ったという事である、拡大造林中心の時代は終ったという事である。拡大造林中心の時代は終ったという事である。

しかし気になるのは、拡大造林時代の成功と 大敗がどれだけ整理されて、林政の転換が行わ というなり見かけた。またアカマツしか育 造林地でかなり見かけた。またアカマツしか育 造林地でかなり見かけた。またアカマツしか育 たない土地であるにもかかわらず、ヒノキが植 たない土地であるにもかかわらず、とノキが植 たない土地であるにもかかわらず、とがある。

ニュアル書としてどのように精緻にできていてたれた宮崎榊さん(林業試験場土壤調査部長をやれた宮崎榊さん(林業試験場土壌調査部長をやられた)から昔聞いた話だが、全国的な森林土られた原因と結果をよく認識して、樹種と植栽を見ずに、形式的に土壌型の名前のみで適地選を見ずに、形式的に土壌型の名前のみで適地選を見ずに、形式的に土壌型の名前のみで適地選を見ずに、形式的に土壌型の名前のみで適地選を見ずに、形式的に土壌型の名前のみで適地選を見ずに、形式的に土壌型の名前のみで適地選を見ずに、形式的に土壌型が、全国的な森林土壌調査と育苗技術で大きな足跡を残された宮崎神さん。

茂

の検討委員会」の設置と、

林政は

2

大きな転換期を迎えている。それ

策定、林野庁の「自然保護と林業

経団連の提言、

全国森林計画

田

中

では、生きた技術として身につかないというとも、それが受験勉強のように叩きこまれるだけ

とだったのではないかと思う。では、生きた技術として身につかないというこ

失敗と成功の正確な記録を

業は、 明治四十年代にかけての、 争が終り日露戦争で勝利した明治三十年代から 戦争が契機となっているが、その初めは日清戦 のぼると、戦前は国有林中心の林政で、 明治十年代には年五百町歩の造林がせいぜいだ である第一期森林治水事業が始った頃である。 える造林を行ない、 の二十二年間に、 った国有林野の周辺で急速に造林をすすめた。 して伐採量をふやすとともに、未立木状態にあ 業が始まり、民有林に対する補助政策の初まり ったが、特別経営事業が終了する大正十年まで 木、パルプなどの木材需要が増大したのに対応 明治三十二年から始まった国有林特別経営事 林政の転換期といわれた時期を明治までさか 日清戦争後の土木建築、車輌、 年一万五千から二万町歩をこ その合計面積は五十五万町 国有林特別経営事 造船、 しかも

遠野ヒノキの銘柄で市場で取引きされ、青森営・北上山地まで植えられたのは特別経営時代で、おの北限はは旧仙台藩の領域といわれたが、今ではその大半は伐られてない。はかれたが、今ではその大半は伐られてない。 大山地まで植えられたので、植えられたが、今ではその大半は伐られてない。 大山地まで植えられたので、植えられた 横種ではヒノキが最も多く、東北地方ではヒノキの北限はは旧仙台藩の領域といわれたのを、本村をに達した。これは外材の輸入が少なく、木材歩に達した。これは外材の輸入が少なく、木材

林局のドル箱と一時はいわれた。

昭和初期には予算不足と輸移入材が多かったとから、国有林では択伐と天然更新が重視さとから、国有林では択伐と天然更新が重視さいたが、第二次大戦を経て、昭和三十年代にはれたが、第二次大戦を経て、昭和三十年代にはれたが、第二次大戦を経て、昭和三十年代にはれたが、第二次大戦を経て、昭和三十年代にはれる林業で、森林の取扱い方針が余りにも変りすぎることは問題である。

ここ一、二年が勝負どころ

0

経団連の提言を読んで先ず眼にとびこんでくるのは、「森林の危機」ということが呼ばれているが、それは「人工林の経営の危機」であると、林政審報告の「林政の基本方向」が副題で、とへの挑戦ともうけとれる件りである。「自然とへの挑戦ともうけとれる件りである。「自然とへの挑戦ともうけとれる件りである。「自然とへの挑戦ともうけとれるのを当が確立されれば、はすむほどの状況に、今日の日本の森林はおかれているのだろうか。

実は人工林に限ったことではない。は一千万加といかにも日本は緑豊かに見える。は一千万加といかにも日本は緑豊かに見える。は一千万加といかにも日本は緑豊かに見える。は一千万加といかにも日本は緑豊かに見える。

都市近郊と平場農村にはあわせて約四百万地都市近郊と平場農村にはあわせて約四百万地があり、私有林面積の約七割を保有するの森林があり、私有林面積の約七割を保有するがきくなったが、気象災害と病虫害に弱い肥満大きくなったが、気象災害と病虫害に弱い肥満に拡がり、これに林業の収益性低下が加わり、に拡がり、これに林業の収益性低下が加わり、に拡がり、これに林業の収益性低下が加わり、に拡がり、これに林業の収益性低下が加る。

の林政は、零細所有者およびその協同組織とし提言の中にはやゝ気になる件りがある。「従来

とういうことをいうのだろうか。 ての森林組合に対する支援策や山村対策が中心となり、林業経営確立への視点が乏しかった。 なり、林業経営確立への視点が乏しかった。 なり、林葉経営確立への視点が乏しかった。 なり、 経費公開主義の下で手数料率は四~七%とり、 経費公開主義の下で手数料率は四~七%という極めて低いものである。 これを見直せとはいう極めて低いものである。 これを見直せとはいう極めて低いものである。 これを見直せとはいう極めて低いものである。 これを見直せとはどういうことをいうのだろうか。

変化の時代といわれる中で、九〇年代にどのようにして国産材時代実現の足がかりをつかむようにして国産材時代実現の足がかりをつかむようにして国産材時代実現の足がかりをつかむようにして国産材時代実現の足がかりをつかむようにして国産材時代実現の足がかりをつかむようにして国産材時代実現の足がかりをつかむようにして国産材時代実現の足がかりをつかりをつかりで、九〇年代にどの変化の時代といわれる中で、九〇年代にどの

(全国森林組合連合会常務理事・会員)

を連載中です。
「林政の転換期」に対して会員の率直な声

御意見のある方は三○○○字ていどにま

事務局

とめて投稿下さい。

は雪がとけ始め、 ふりまく。 東京では春爛漫、 春の息吹きをあたり一面に 桜が満開のころ、 旭川で

める。 ばらくの間雪が残る。雪どけの合い間から黄 が顔を出して、たちまちのうちに林床を埋め 消えた地表には、 もおなじみの風景だが、舞台が一転して雪の 金色のフクジュソウが顔を出すのは、どこで 比較的高木が多いせいか、平地にくらべてし オバボダイジユやシラカバ、センノキなどの これも淡いブルーのエゾエンゴサクとの共生 レイソウ属の三弁花は、ひと足遅れて咲き始 ナノエンレイソウをはじめ、 ヒトリシズカが点在する。北国の花、オオバ ると、ところどころに、白花のニリンソウ、 は、一瞬のうちに花園をつくり出す。よく見 つくしてしまう。淡い紫紅色のカタクリと、 優佳良織工芸館北側傾斜地の雑木林は、オ カタクリやエゾエンゴサク 何種類かのエン

象に強い感動を覚えているうちに、この花々 はいっせいに姿を消してしまう。次の日に見 に変わる見事さは、息をのむような美しさで そしてたちまち消失してしまうこの一瞬の時 緑の葉をつけるまでにはまだ時間がかかる。 樹木の芽が少しずつふくらみ始める。樹々が た、という思いである。代わって、雑木林の に行ったら、あの花園は忽然と姿を消してい ある。林床の輪舞を見る思いである。 短命な花園、それが突然のように表われ、 雪の冬の白い風景が、ある日突然、 その印

初春のきざしを刻む。本州と北海道の季節は 初夏の風にゆれる時期、北海道の中央部では 本州では連休があけて、 満開のつつじ類が 妖精のいたずらのように感じられるからであ 精」。たちまちのうちに姿を消すそのさまが、 スプリング・エフェメラルと呼ぶ。「春の妖 期を、北海道の植物学者や雪の科学者たちは



てくる。

でいくらい開いている。

を対している。

の関心が知らず知らずのうちに大きくなったの関心が知らず知らずのうちに大きくなったる。

を対したが、の四季は、をが長い分だけ、残りの三つの季の四季は、をが長い分だけ、残りの三つの季の四季は、をが長い分だけ、残りの三つの季ののでらい開いている。

優佳良織は、このような北海道の自然風土を織りで表現してみたい、という気持を持ちを織りで表現してみたい、という気持を持ちを織りで表現してみたい、という気持を持ちを織りで表現してみたい、とれば、このような北海道の風土を反映する。それが土地の匂いがある。米沢には紅花の匂いがある。他島には藍の風土を反映する。それが土地の匂いである。優佳良織の作品のテーマに北海道の風土やの風土を反映する。それが土地の匂いである。それぞれにその風土を反映する。それが土地の匂いがある。と思い続けている。他島は大い、と考えているからである。北海道の自然風土を織りで表現してみたい、と考えているからである。北海道の自然風土を織りで表現してみたい、と考えているからである。北海道の自然風土を織りである。と思い続けている。

う感じ、いやこういう感じではない、とさまら感じ、いやこういう感じではない、とされるのをコピーしようとは決して思わない。ためのをコピーしようとする。見れば見るほど微感覚をとらえようとする。見れば見るほど微感覚をとらえようとする。見れば見るほど微感覚をとらえようとする。見れば見るほど微感覚をとらえようとする。見れば見るほど微感覚をとらえようとする時、自然そのしかし、自然をテーマにする時、自然そのしかし、自然をテーマにする時、自然そのしかし、自然をテーマにする時、自然その

の手を動かす。
の手を動かす。

ている。

で美しい北海道の風土をいつも心の中に置い想にゆだねられる。だが私は、限りなく豊かているものではなくて、あくまでも作者の発それは、どうしなければならない、と決まっくれは、どうしなければならない。

である。

・しかし、メーンは冬の雪の風景。これは何にもまして北海道のの手仕事の内容を豊かに大雪山麓には日本一美しい雪の結晶が降る。大雪山麓には日本一美しい雪の結晶が降る。大雪山麓には日本一美しい雪の結晶が降る。してくれる。北海道のの手仕事の内容を豊かにもまして北海道なのである。雪もまた織りしてくれる。北海道の匂う織りが、私の目標である。

(優佳良織・織元)

切り抜き森林

地方新聞・この四カ月〉

2 月

毎日 申し入れへ/来週、 避ける/県農林部 青秋林道問題 秋田県と協議 建設先送り、 強行着工

対が強いことなどから今年春の着 道の建設問題について、地元の反 した。この中で県農林部は青秋林 側との協議を行うことを明らかに 林部は一日、 る方針だ。 設の先送りを秋田県側に申し入れ 工は事実上難しくなったとして建 青秋林道の建設をめぐって県農 今月八日にも秋田県

異議意見書が提出されるなど建設 春の着工は事実上不可能としてい 反対の声が強まっているため今年 ケ沢町民らから一万二千通余りの の指定解除通知に対して地元の鰺 構え。しかし、水源かん養保安林 はあくまで青秋林道を建設したい 県農林部によると、 (後略) 県側として

信濃毎日 /県林務部が長期構想素案/「 住民と森林 ふれあ

けての森林づくり」がテーマで、 に県森林・林業長期構想の素案を 開いた県森林懇話会(委員長・只 示した。構想は「二十一世紀に向 木良也信大理学部教授、十五人) 県林務部は十七日、 の基金」10 億円を目標 (一八日) 長野市内で

三月末までに最終決定する。(後略) 題や具体的な進め方を打ち出した。 民と森林のふれあいについての課 の計画、 林業サイドに偏りがちだった従来 懇話会では特に異論はなく、県は に立った森林づくり」を強調、 構想に比べ「生活的視点 住

3 月

陳情 **鑿**朝日 県自然保護連盟 (三〇三) 岩菅山の原生林守って/ 五輪招致で県に

信州の豊かな森林を二十一世紀

は自然保護にも十分留意してほし 林が残っている。開発にあたって いる志賀高原の岩菅山について、 致委員会が滑降コースに予定して 長らは二十九日、 岩菅山には日本を代表する原生 県自然保護連盟の隅田隆太郎会 長野冬季五輪招

事は たい」と答えた。同連盟は十七日 めどに、自然保護に関しての提言 今後調査を進めて国内候補地一本 ク問題調査団」を設立しており、 に、「志賀高原岩菅山とオリンピッ い」と、吉村知事に陳情した。 広く訴えて行くことにしている。 をまとめ、原生林保護の大切さを 化が決まると見られる五月ごろを (後略) 「納得のいく保護をしていき

4 月

守り育てる会」あす長野で総会 開発/どう調和 信州の緑とリゾー 研究部会も/

中心とする活動を行ったが、 教育会館で第二回総会と記念の集 日午後一時半から、長野市の信濃 を守り育てる会」 けで昨年四月に発足した「信州緑 いを開く。 ・一般会員二百二十六人) は十七 に引き継ごう―と専門家の呼びか 昨年度は自然観察会を (花岡堅而会長 今年

知 緑の保全との調和を考える研究部 研究活動にも乗り出すことにして 会など三つの部会を設置。 翻朝 日 おり、参加者を募っている。 、保護連合 知床林 代表と事務局長辞任 立木募金を中止

二八旦

札幌市内で緊急代表者会議を開き 保護連合(瀬川潔代表)は十七日 対運動の一環として、 中明子事務局長が辞任することを て瀬川代表と寺島一男副代表、 めた。また、 募金運動の中止と募金の返却を決 が流用された問題で、北海道自然 んで伐採予定立木の買い取り募金 か連合への寄付に振り分けること 林野庁が買い取りに応じなかった 万円の募金が寄せられた。 募金を提唱。全国から七百六十六 採を予定している立木の買い取り に組織再建に取り組むことになった。 授を代表代行に選び、財政面を中心 正式に了承。中野徹三札幌学院大教 なっていた。 同連合は昨年四月、 知床国有林の伐採反対運動に絡 募金者の希望によって返却 募金流用の責任を取っ 林野庁が伐 知床伐採反 募金は

採反対運動に使っていたことが、 で募金の一部二百四十七万円を伐 ところが、田中事務局長が独断 ~ 5月

る。 はすでに同事務局長が返済してい 百六十四万円を運動につぎ込んで 今月上旬に表面化。帳簿外でも二 いたことが分かった。帳簿外の分

林組合/産直住宅部門に進出 羅 熊 日 銘柄化も/生き残りへ新戦略 くみあい探訪/小国町森 杉

円ほど上回った。 業不況で今ひとつさえない。それ 方メートルを突破、 が取り扱った素材販売量は四万立 でも六十二年度に小国町森林組合 ルの山林のうち七割以上が私有林 国町は林業の町だ。 十億円の大台に乗り、 一万四千七百五円と、 小国杉の美林が広がる阿蘇郡小 しかし林家の表情は長引く林 うち九割以上が特産の杉であ 販売額も初め 一万へクター 平均単価も 前年を三千

どを背景に、同組合では、 材の輸入、素材の供給量の増加な は期待できない」と厳しい見方を ついては住宅の木造率の低下や外 だが、 今後の素材価格の動向に 「高値

森林組合法が改正され、 と小国杉の銘柄化の推進だ。昨年、 いるの けて同組合が意欲的に取り組んで こうした中で木材の需要増に向 産直住宅部門への進出 森林組合

のに素早く対応した。 の事業が住宅建築まで拡大された

() b

小国杉を使用した本格木造で、若 中から好きな間取りを選んでもらう い世代にも受けるように、 方式などが考えられている(後略) 基にいくつかのモデルを作りその ート調査でニーズを把握、それを 産直住宅は、構造材は一〇〇% アンケ

月

5

千二百へクタール 林に指定(二日 **쀌南信日日** 茅野の八ヶ岳国有林 / 自然観察教育

二百ヘクタールが今年度、 を提供する。 森林・林業と自然を体験できる場 含めた地域が指定を受けるもので 四一へクタールに次ぎ二カ所目。 管内では富士見町鼻戸屋の十七・ 見直しに伴うもので、諏訪営林署 施業計画区第五次地域施業計画の の「自然観察教育林」に指定され 茅野市の八ケ岳連峰国有林約千 同教育林は、優れた自然景観を 長野営林局による伊那谷地域 保健休養、木材生産の場を (後略) 林野庁

羅 熊 日 /安くて手軽 (九日 用途広がるウッドブロッ 民間への普及も

|産木材の需要が低迷している 熊本営林局は林道造成や治山 の森林鉄道ファンらも参加した。

ど科学技術庁長官から「注目発明 などの土木工事に、 丸太を組み立てるだけの単純なつ 売れ行きが急激に伸びた。このほ 売に乗り出したところ、前年度は ク」を開発、三年前から製作・販 ブロックに代わる「ウッドブロッ くりだが、これまで切り捨てられ 選定証」を受けたアイデア商品で している。 では林業振興に役立てば、 ていた間伐材が使えるため、 コンクリート と期待 同局

結成 事者らが昔しのび **| 3 | | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | | 3 | |** 村で十四、十五の両日、 森林鉄道復活か? 観光の目玉にも(一六日) 90人で「会」 安芸郡馬路 西野馬路

現に寄せる思は熱くなり、ついに 進むにつれて参加者の森林鉄道再 OBや機関車製作者、 司村長) し事業実行委員会(会長・西野真 た関係者から持ち上がり、 に、高知市内在住の鉄道に従事し ょうど四半世紀を経過したのを機 鉄道を語る会が開かれたが、会が 村長ら九十人が出席し魚梁瀬森林 「語る会」は鉄道がなくなってち 森林鉄道を走らせる会」が誕生した。 が献立てた。 兵庫県から 高知営林局 村おこ

(後略) 新緑を背に多彩な演出

ようにあがり、時折、 ペクタは、 郡久木野村の野外ステージ・アス 本県主催)が十五日開かれた阿蘇 緑に包まれた雄大な大自然の中で 外からの参加者約五千百人は、 まずまずのコンディション。県内 音楽やダンスで大会を盛り上げた。 (後略) 、全国野鳥保護のつどい 「育てよう小鳥、広げよう緑」と、 (環境庁、日本鳥類保護連盟、 ラスや百人ダンス (一六日) 第四十二回全国野鳥保護のつど 早朝までの雨もウソの 薄日も差す、 新

ずか50万円 難サンケイ 下水口に木炭 肱川の水がスミます 特産の有効利用にも 大洲/費用はわ

だが成功すれば、 のひどい肱川下水道口に木炭使用 する「肱川をきれいにする協議会 域の大洲市など十二市町村で構成 産品である木炭の有効利用と、一 の浄化装置を設置した。事業費五 九日、生活排水が流れ込んで悪臭 い開きを前に、 石二鳥のアイデア。 十万円と安上がりのうえ、地元特 (会長・近田寛秋大洲市長)は十 愛媛県最大の一級河川、 プにもつながると関係者の期待 (後略) 水郷のイメージア 六月一日のウ飼 まだ試験段階 肱川

会員の消息

沼田真 日本学士院(幹事・脇村義 沼田真 太郎・東大名誉教授)は新し く設けられた「日本学士院エジンバラ公 とを決め6月13日授賞式が行われた。 とを決め6月3日授賞式が行われた。

田りとして着られてきな「『直勿羊をおいてという。」 の学術成果をあげた日本人研究者に贈らる学術成果をあげた日本人研究者に贈られることになっている。

果にたいしてのもの。

果にたいしてのもの。

果にたいしてのもの。

果にたいしてのもの。

「朝日グリーンセミナー」(主催・森林文化朝日グリーンセミナー 回を 数える

協会・朝日新聞社)に多くの国民森林会に日本人〉に筒井迪夫さん、5月1日<巨樹の森〉に八木下弘さん、6月11日<巨樹の森〉に八木下弘さん、6月11日<巨樹の森〉に八木下弘さん、10月15日<照葉樹林>に沼田真さん、木原啓吉さん、12月10日<緑の集い>に原啓吉さん、12月10日<緑の集い>に原啓吉さんです。同セミナーは前記のほかに<多摩の清流>7月9日<林業見学>9月17日、<秋の彩り>11月12日なども計画されています。

富山和子 試問題に、『日本再発見・水の旅』(文芸春秋社)の「赤城山のツツ水の旅』(文芸春秋社)の「赤城山のツツ水の旅』(文芸春秋社)の「赤城山のツツ水の旅」(文芸春秋社)の「赤城山のツツ水の旅」(文芸春秋社)の「赤城山のツツ水の旅」(文芸春秋社)の「赤城山のツツ水の旅」(文芸春秋社)の「赤城山のツツ水の旅」にふれた部分が出題さい。

一方、全国青少年読書感想文コンクー一方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクーー方、全国青少年読書感想文コンクー

と共にパネラーとして出席。・真生会館)に伊東光晴・斉藤謹造氏ら・真生会館)に伊東光晴・斉藤謹造氏ら室田武 ントロビー」(4月9日東京室田武 シンポジウム「経済学とエ

中国と 中国官されたが、教え子三 ICY IN JAPAN」(日本の林政)を退官 ICY IN JAPAN」(日本の林政)を退官 になして出版、各国へも寄贈しました。 会員で京都大学を定 というで、教え子三

会員の出した本

哲学書を出版されました。(¥2100)自然と人間の哲学 んが岩波書店から

する努力を抜きにして今日の自然を語る察する中で、「自然哲学を確立しようと群馬県上野村の生活を通して自然を洞

という視点から、「自然―人間関係の変革発を重ねていくばかりになる」(88%)ととは、自然の現状に対する対症的な告

▽新刊紹介△

思いで貫かれた書。けださねばならない」(137~)とののなかに、自然と人間双方の解放をみつ

貨幣が、社会を動かす重要な要素となく再生産される状態」(239~)と提起が重用されるなかで、人間と自然との共が重用されるなかで、人間と自然との共然と人間の共生できる労働のあり方を解然と人間の共生とは…自然と人間の交通がどちらも阻害されることなく再生産される状態」(239~)と提起く再生産される状態」(239~)と提起くます。

のです。 の暮らしを通じて回顧し、前述の考えのの暮らしを通じて回顧し、前述の考えのの暮らしを通じて回顧し、前述の考えののできるのには筆者の思考の軌跡を、少年時

房/¥一六〇〇) 会員の字江敏勝さんが 会員の字江敏勝さんが

自然の移り変わりを描き続けてきましたして、今までも山の生活、仕事、四季の字江さんは紀州半島の山々を仕事場と

います。 一九八七年まで、同人誌『VIKING』 一九八七年まで、同人誌『VIKING』 が、この本もその一冊。一九六三年から

…ひきつづいて働けるようにしてもらい ある」(木立を抜けて)。山泊をしながらの 私の作品という思いの方が強いくらいで たちの仕事の手応えを実感する。むしろ ています。 のなかで翻弄される労働者の姿も描かれ だ」(霧の海)という林業の厳しい状況 てるまで、すべての仕事を凍結するそう 鉄会社では、あらためて事業の計画をた たい」という願いも踏みにじられ、「電 とは変わりないのだから、その仕事(に) 有権が移っても植林の手入れが必要なこ が、作業の中途で電鉄会社に売られ、「所 実感します。そうした思いを込めた造林地 労働の成果を山の上から眺めて筆者はこう 「植林地を眺めながら、三年間の自分

せてくれます。というでは、世界のニュースにふれた山人のを伝え、世界のニュースにふれた山人の動物の息きづかい、時々刻々変わる景観動物の息きづかい、時々刻々変わる景観がの論、四季の山の植物のたたずまいや

千利休とその妻たち 子さんが新潮文 会員の三浦綾

休を横糸に織りあげた長編。権力闘争の渦中で茶の道を完成させた利糸に、信長や秀吉など戦国の武将たちの糸に、信長や秀吉など戦国の武将たちの

筆者は敬虔なクリスチャン。今までの 作品にもキリスト教のモチーフが取上げ たいる思想もそれ。「茶の湯と宗教は同 ている思想もそれ。「茶の湯と宗教は同 でいる思想もそれ。「茶の湯と宗教は同 でいる思想もそれ。「茶の湯と宗教は同 でいます。そればかりでなど、利休の心の のうと心を決める下りなど、利休の心の のうと心を決める下りなど、利休の心 に取込んだ聖餐祭の仕草など、利休の に取込んだ聖餐祭の仕草など、利休の たのあちこちにもキリスト教とのかかわ たのあちこちにもキリスト教とのかかわ

利休の28歳から70歳までの生涯を一気に読ませます。「この作家は、歴史小説に請ませます。「この作家は、歴史小説に請ませます。「この作家は、歴史小説を性と緊張した文体、ほぼ完璧な物語の感性と緊張した文体、ほぼ完璧な物語のは性と緊張した文体、ほぼ完璧な物語の様式がここに見いだされます。(文芸評価が、この作家は、歴史小説の分野になる。

朝日新聞社 ¥1800 ○私史環境行政 橋本道夫

○「耕す文化」の時代 木村尚三郎



国民森林会議第6回総会終る

活動の強化誓う

十分な議論を」とあいさつ。 とは機、国民森林会議への期待も大きく任務も重い。 き、せ 市川議長は「日本民族を支えてきた森林は危 じめる

田中幹事の開会のあいさつで開会。議長に市川健夫会員を選び議事に入りました。

会員一六人(外に購読会員二人)が出席、委任状提出者七四人をふくめて総会は成立、

第六回総会は、三月二六日東京・本郷の学士会分館で開かれました。

隅谷会長は「発足して第六回の総会を迎えたい」に対するのではないかーという批判もある。今総会であのではないかーという批判もある。今総会でるのではないかーという批判もある。今総会であのではないかーという批判もある。からってはないかーというが、一三八人の会員の熱心な協力の許に、研究、が、一三八人の会員の熱心な協力の許に、研究、が、一三八人の会員の熱心な協力の許に、研究、が、一三八人の会員の熱心な協力の許に、研究、が、一三八人の会員の熱心な協力の許に、研究、が、一三八人の会員の熱心な協力の計とした。

ました。萩野事務局長が別掲の通り報告。ついで自己紹介ののち、報告から議題に入り

<経過の報告>

国民森林会議は、結成後六年を経、会員をは

ーラム等のイベントに当会議会員も参加し、

さらに地方、

地域におけるさまざまな森林フ

この一年の御協力に感謝申し上げ経過についき、着実に諸活動を推進してきました。 とりわけ、これまでの"提言"の具体的実践をして、教育森林活動の場の確保や各地方での「森林フォーラム」への参加など多くの成果を積みあげつつあります。

をめざすその再生――の提言について1.「都市に森と緑を!」――二一世紀

て、その概要を報告いたします。

(敬称略)

2.

おこなってきました。関や、報道機関等、関係団体に広く配布要請をを付して関係する国・地方自治体などの行政機縁を!」の提言については、当会議の全会員名の特別では、当会議の全会員名のでは、対しては、当会議の全会員名

広く提言内容の趣旨を広めてきました。
これまでに「土地臨調」や国土庁の「四全総などをめぐる動向と関連して、特に都庁をはじめとする地方自治体から資料送付を要請されるなど一定の評価、関心がよせられています。また、これまでの当会議が公表している「提言」についても、林野庁、環境庁をはじめとする中央行政機関及び地方自治体等からの資料要る中央行政機関及び地方自治体等からの資料要る中央行政機関及び地方自治体等からの資料要も中央行政機関及び地方自治体等からの資料を表して、地域での「森林フォーラム」等で活用されるなど広範な分野から注目されています。

「教育森林」活動について

ます。としてその利用を望む国民的要請が高まっていとしてその利用を望む国民的要請が高まってい

設定することになりました。
茅野市の八ケ岳地区の国有林(約一一〇〇㎞)に回総会決定)その具体的実践活動の場を長野県回総会決定)をの具体的実践活動の場を長野県

ジェクトで成案(会誌2二二号参照)を得て、森林教育活動の大綱については、当会議プロ

りでとり組むこととしています。 今年度の活動計画と運営については別紙のとお 活動の実施主体は現地の八ヶ岳観光協会が当り、 これにもとづき今後逐次取り組んでいきますが、

八ヶ岳教育森林

昭和六三年度活動計画と運営

1. 活動の内容

山菜の探訪 日 五月二八日(土)~二九

(1)

用 設 赤岳山荘 日 (日) (担当補野) 一泊二日

0カリキュラム 森林生態系と山菜、 料理、貯蔵の方法 採取

(2)高山植物の花に親しむ 七月二日(土)~三日

日

用 施 設 硫黄山荘(担当浦野) 日 一泊二日

(2)

0カリキュラム 高山植物の観察

"きのこ"のいろいろ

日 九月一七日(土)~一八 日(日) 一泊二日

利

カリキュラム 用 設 この見分け方、採取、料 森林生態系と菌類、きの 小松山荘(担当小松)

貯蔵方法

2. 運営の大要

(1) 対象人員 一クラス二〇名

> (3) (2) 対象者 講師と補助者 成人男女(山行にたえられる人) 講師は講師団から選任、

(4) 参加費

カリキュラム 講師、補助者、 で具体化する。 担当者間

(5)

(6) 宣伝及び実行

3.

指導者養成 今年度各行事の中に、今後

(7)

(1) 活動名称及び講師団等について 当該地区森林についてのネーミング(場

3.

*八ケ岳教育森林

の呼称)

(国有林の指定 "自然観察教育林』)

ライセンスの名称 活動についてのネーミング 『自然と森の学校』 一 森のインタープ プハケ岳教室

(3) 講師団の構成

1 o市川 o遠山 o杉本 o半田 。代表大内 。北村 。松沢 一一名で構成する。 当会議の幹事評議員を中心として次の o 志村 (呼称、国民森林会 。柴田 。本

2 八ヶ岳教育森林関係については、只木、 議教育森林講師団

補助者は現地関係者から

0

一万~一万五〇〇円で(近日中 に決定)

現地観光協会が主体とな

めの実習を加味する。 の研修補助者の養成のた

むことを決定しました。

についてプロジェクトチームを構成してとりく

ーマとして、「森林・林業にかかわる税制問題」

昨年総会において、この一年の課題別討議テ

らい、関係の行政機関や団体の専門的有識者か て本総会に提起することとなりました。 らのヒヤリング、評議員の討議などを重ね会誌 岡和夫・田中茂・福岡克也・阿部正昭・榎戸勇 M.二四号に掲載している提言案を幹事会案とし ・佐野雅郎・森宏太郎・吉沢四郎・萩野敏雄の 一〇氏で構成し、全会員からも意見を寄せても プロジェクトチームのメンバーは、大内力・

4. 山村地域の定点調査について

村、三重県海山町の二カ所でそれぞれプロジェ クトを構成し取り組みを継続してきています。 上野村については、今後の調査・対策方向に 山村地域の定点調査については、群馬県上野

補名簿も含め、当会議講師団で総会後決 伊藤、管原会員を中心として、 別紙の候

(4) 現地の意向をふまえ調整していく。 ととするが、イベント等の計画については、 これらの経験を踏えて、検討をおこなうこ 当面、六三年度計画分の実行を通して、 森林フォーラム等関係団体との提携

提言について 日本の、 「森林相続税の適正化を求める―― 森林の未来のために――」の

29

ころ、名を養を受けているような考え方で目のいて、資料Ⅱに示しているような考え方で目

今後の対応を協議することとしています。が遅れていますが、当面病状の回復を待って、すが現地会員の病気入院等もあって、現地対策で合意し(資料Ⅱ)それぞれ分担をきめていまれみ方向と当面の対策について、プロジェクト

資料工

上野村における今後の調査・対策について

- ① 上野村の実態に適応した森林・林業面から、今後の調査・対策の方向について
- 究していく。
 (2) 都市と山村を結ぶ人的交流を深め、これらの振興策を考究し、提起する。
- 2. 当面の取り組みについて
- 活動等の問題点の把握につとめる。
 村民との対話・交流を深め、産業、経済
- ② 都市域住民との交流を積み上げ、多様な

ていく。 把握と振興活性化等を考究し、討議を重ねミなど)をはかり、それらを通じて、問題グループ化(山菜、木工、つり、各大学ゼ

する。
(4) これらの活動の拠点的な場の確保を検討
(3) そのための体験、実践的活動をおこなう。

資料Ⅲ

海山町の今後の調査について

- 1. 今後の年次的な調査方向
- の実態に適応した振興策を、部分的、中間の実態に適応した振興策を、部分的、中間の実態に適応した振興策を、部分的、中間
- 提言を含めることとする。 後の地域振興活性化への課題・方策などの でのまとめを行うこととし、その中に今
- 2. 当面の調査について
- (2) 地域的な産業連関の動向を調査し資料的って調査を行う。

にまとめる。

(担当・北尾)

- (3) 産業連関の動向を把握したうえで、その
- ⑷ 同時に地域における林業労働力動向を把

を考究する。(担当・佐野)握し、技術・技能集団の確保の具体的方策

- ととする。(担当・野中)の連携をつよめ、必要な協力体制を得るとてくるので、海山町の「林業振興会議」との、集落の動向把握だけでは不十分な面も出
- 当面の調査日程

3.

- ての一定の資料をまとめる。 き取り調査などで、産業連関の動向についい 88年五月頃までに、集落を対象に随時聞
- (2) その上で五月下旬頃に、その資料にもとなったの上で五月下旬頃に、その資料にもとなった。 まま 間題点と今後の課題、対策について、 がき問題点と今後の課題、対策について、 がき問題点と今後の課題、対策について、 がき問題点と今後の課題、対策について、 がき問題点と今後の課題、対策について、 がき問題点と今後の課題、対策について、 がき問題点と
- 組みについて シンポジウム、フォーラム等の取り

昨年五月一六日高知市で当会議と「高知県緑の環境会議」との共催で「国民の森林を考えるの環境会議」との共催で「国民の森林を考えるの環境会議」との共催で「国民の森林を考えるの環境会議」との共催で「国民の森林を考えるの環境会議」との共催で「国民の森林を考えるの環境会議と「高知県緑田年五月一六日高知市で当会議と「高知県緑田年五月一六日高知市で当会議と「高知県緑田年五月一六日高知市で当会議と「高知県緑田年五月一六日高知市で当会議と「高知県緑田年五月一六日高知市で当会議と「高知県緑田東京は日本

ネリストや会場参加者も交え、林業振興と山当会議半田良一幹事が基調講演を担当、パ

・協力が求められている状況にあります。すた当会議会員などの、自主的な参加で「森林フォーラム実行委」が結成され、当会議会員はそれぞれ大きな役割を担ってきました。今後「森林フォーラム実行委」が結成され、当会議会員村再生への方策について討論がおこなわれ大会村再生への方策について討論がおこなわれ大会

6. 関係団体との提携について

団体も会誌の購読やフォーラム実施などで大きさらに、当会議の活動を支持・協力する関係きています。きています。まています。までいます。までいます。までいます。までいます。までいます。までは、当会議も正式に加盟しており、

7. 会員の加入状況について

な協力がよせられてきました。

へ増(五人加入、三人脱退)となりました。本総会時点での通常会員数は一三八人で、二

6 会誌の発行

していますが、より一層の充実をめざしていく 本本。また会誌の編集については、全会員の参 一回の発行部数は、一二○○部を持続してい 一回の発行部数は、一二○○部を持続してい ます。また会誌の編集については、全会員の参 ます。また会誌の編集については、全会員の参 ます。また会談の編集については、全会員の参 がしてきており、二四号を数えていきます。 を引いる。 当会議の機関誌的役割を担っている『国民と

こととしています。

すぎました。まじて、当会議が発足してからはやくも六年が来を憂えて』の設立趣旨書のもとに有志相集いの別的事項を報告申し上げましたが『森林の未以上、この一年間の経過について、それぞれ

課題があるように思います。当会議のこんどの活動運営について当面二つの当会議のこんどの活動運営について当面二つのこの時点で、全般的にふりかえってみますに、

た考えております。 と考えております。 と考えております。

いま、森林・林業をめぐる状況がますます困ものにするかという点でございます。出して参りましたが、これらの内容を具体的に出して参りましたが、これらの内容を具体的に出して参りましたが、これまで、いくつかの提言を

充実させて参りたいものと考えております。これらの期待に応えるため、活動をより一層ります。ります。

<決算報告と監査報告>

い」との監査報告があって、これを承認。本間監事から「正確に処理されていて異常はな、決算報告(前号既報・北村幹事報告)のあと、

〈森林税制の提言〉

きがあって、内容を説明。して相続税について提言をしたもの」との前置して相続税について提言をしたもの」との前置をあるが、目下の緊急問題と大内幹事から「森林税制といえば木材取引税、

<活動方針・予算>

一会誌№二四で既報の通り活動方針(萩野幹事)

議の提言や活動をフイードバックする場としてか調査結果をまとめて報告するというより、会定点調査に関連して「上野村の定点調査は何

②森林基金を設けようという動きが在野の有志 ため、相続税の強化、が議論になっている。提 言について税調や土地臨調へのアクションを。 員としてやっているが、都市の宅地供給の増の 現地での聞き込みも効果の一つ。今後さらに調 調査の現れ。内山幹事の出版や学生をつれての なくてはならぬものになっている。これも定点 査をすすめ結実させたい」と大野幹事が説明。 また本間監事は「①土地臨調のメンバーの一

> 補うものとして次の具体的なものが示されました。 ですすめられている。来年度こうしたテーマで 提言をまとめることは賛成」と発言しました。 なお、事務局から「活動方針・事業計画」を

「一九八八年度活動方針及び事業計画」議案に 関する事項についての確認

1. 議案七項に関連する事項

(1) 「森林利用と自然保護」問題についての

方を問う 日本の経済発展と援助の規模、 あり

とその可能性、方策は ―― 日本の国土利用と森林の果たす役割 四全総における森林の位置づけ

Ⅱ個別課題

I 総 2

夕切

八月末まで延期

1

国民経済と森林

― 国民経済に於ける森林のもつ役割と

1

(複数のテーマも可、既発表のものも可)

一テーマー〇〇〇字以内でお書き下さい。

「森林利用と自然保護」の課題テーマ

地域活性化と森林

す可能性 ― 森林空間の活用をふくめ森林の果た

― 国有林の位置づけ

2 リゾート法と森林利用

― 国民が安く豊かな自然を亨受する方

― 地域拡大につながるか

大規模開発で自然破壊はないか

4

外材輸入と海外の森林

地球の森林資源を守る立場と外材輸

機は何か

3

未来の環境資源と森林

- 人類生存にとっていま地球環境の危

― 地球環境としての森林の現状と役割

2

地球環境資源と森林

3 都市域における緑問題

―― 開発と緑の保全(創出)のための手

国民森林利用とナショナルトラスト 拠金による保全運動のあり方(天神

と農家林業

農産物の市場開放による農家の衰退

海外林業援助

入の調整

崎 知床の例をふくめて

5 ―― 「森林計画」に国民はどう参加する 森林計画制度と国民の合意形成 国の責任のあり方

か、特に都市住民の参加のあり方

6 との合意形成のあり方は ― 施業・利用のあり方をふくめ、国民 自然公園における森林利用

7 保安林と森林利用

水源かん養保安林のあり方

保安林の機能発揮のためすべきこと

ステムのあり方 知事の定める施業要件と国民監視シ

8

分収育林制度

その意味は 放棄との声もある。特に国有林にとって - 都市の住民参加の一形態だが、経営

森林の公益的機能と受益者負担 受益者の特定、負担のあり方と森林

会員から意見を求める際の課題項目 (末尾のワク内を参照) (案)

「森林基金制度」問題検討プロジェクト

チームメンバー 大内、岡、北村、杉本、 田中、 半田、 本

ケ岳教育森林での現地イベントに合せて行う。 議案八項に関連する事項 間、近藤、松沢、萩野 五月二八日(土)~二九日の評議員会を八

2.

の還元(レクもふくむ)

10 ― 環境保全と省力技術のかね合い 除草剤散布と森林

11 野生生物と森林

- 野生生物との共生、

森林の収獲物と

しての生物

12 海洋資源利用と森林 - サケ、マスなど沿岸、 河川漁獲の減

13 中小学校教育と森林活用 - 野外体験教育のあり方をふくめた、

少と森林生態系

14 動と森林 森林教育活動 婦人・青少年・高齢者の福祉・社会活

- 森林と生涯教育と生きがいのあり方

と森林へのアプローチ

15 林業・林学の教育・研究体制と森林・

林業研究機関もバイオ・環境中心に。森林 の教育・研究のあり方を問う - 高校・大学から林業・林学が消え、

16 道路開発と森林

17

18 松枯対策としての薬剤防除

国有林野と天然林施業

国民の資産を守ることになるのか

のかね合い

19

自然保護と林業労働

空中散布の可否

— 山村・林業振興と観光開発を狙う林

のか、現行の天然林施業は正しいのか。 ―― 自然保護からみて機能区分は正しい

― 効果・生態系の破壊と松林の保全と

20 林の保全に重大な影響をもっている。そ の労働者が高齢化し減少 ―― 上記のテーマにふくまれていないも その他 - 地域に労働者がいなくなることは森

1 のについて自由に取り上げて下さい。 全会員から集まった原稿を「私の意見

て刊行。 ―森林利用と自然保護」と題してまとめ

今後の提言に向けての素材とする。

2

2 協議事項

1

第13回評議員会(5月28日)

会

動

き

4 3

会誌の発行(M25について内容を報告)

森林フォーラムへの協力

<参加者>隅谷・内山・大内・北村・半田・萩

員)、伊藤・只木(八ケ岳プロジェクト) 野(幹事)、近藤・遠山・松沢・柴田(評議

1

既発表のものでも可、論文集にして刊行、

「自然保護と森林」の応募状況(6編)。

況

応募続行。

となど明記して、引き続き8月末をめどに 提言をまとめるための討論の素材にするこ

「森林基金制度プロジェクト」の討論状

(1)教育森林の運営について で選任(当分は問題毎に委嘱) ・松沢のプロジェクトと現地会員の相談 八ケ岳の講師については、北村・柴田

イベントのPRなど工夫し、国民森林会 国民森林会議と山小屋と交流し意志疎通。 たいものを出し合い国民森林会議と相談。 元の観光協会が中心になり、各自実施し の地元会員中心)。来年のイベントは、地 ては地元の観光協会の相談に乗り策定 (三人プロジェクトと只木・伊藤・菅原 八ケ岳の来年度のカリキュラムについ

> (3)キュラムは②と関連して作成(国民森林 議としても大学や自治体に呼び掛けなど 会議教育森林講師団=大内代表が担当) 国民森林会議としての教育森林のカリ

定点調査について 国有林へも協力を要請。

(1)りあえず、中間的なまとめ、今後の対処 会報にも発表することをプロジェクトで クトと地元代表(村長始め各層)による 方針を決めるためにも、三人のプロジェ よう地元の受け入れ窓口を決定する。と クトで担当し、総会の方針が実施できる 「上野村20年」の座談会をやり、 上野村=大野・松沢・内山のプロジェ 結果を

3 (2)ね今後の方針をたてる。 幹事(プロジェクト責任者)が現地を訪 の受け入れが困難になっているが、半田 海山町=野中会員が病気のため、

今後の日程 9月10日

2月中旬 12月上旬 (総会対策)。 (提言案について)

森林基金プロジェクト(敬称略)

第1回(4月23日)

参加者 大内・岡・北村・近藤・田 半田・本間・松沢・萩野

2 1 今後の審議日程 構成員確認

4 第2回(5月14日) 準備すべき資料 レクチャーの予定候補

3

など意見交換

参加者 大内・北村・近藤・半田・松沢

田中正明林野庁造林保全課長

PR」などハード面にも配慮した使用をした ら国民に宣伝」「名木等の保全費を負担して りながら調査」 事業をするが、ソフト面の使用も「森林を作 民と森林を結び付ける装置』にし、国民参加 たが、山村ステーや国際交流もすすめ、『国 い。水源整備税の延長で考えざるを得なかっ 制度の概略を説明。基金の運用益を使用して による森林整備を認識させるための運動をや 61年度税制改正大綱のいきさつと今次基金 「物(例えば水)を作りなが

りたい。そのため幅広いものに使えるように

スに運ぶことができる。 拠出が先行することで他産業の拠出がスムー ある。林野庁に推進本部を設ける。林業者の むことが必要で、OB中心の態勢も取りつつ 山へ直接資金を投下出来ないが、61年度以 基金の拠出に林業者がまず率先して取り組

この制度は同じものという考えもある。 を深めてはどうか。四全総の提起した基金と の基金を成功させ、その成り行きを見て検討 降予算面で配慮され、結果的には造林をも含 め手当が可能になった。 他にも基金の構想もあるが、とりあえずこ

熊崎実林業試験場経営部長 益的機能の負担をどうするのか、水の利用者 的機能の産出は①量・価格など計量が困難、 流はそうしたことを求めていない。 のに目が行くが、森林の整備は良好な土壌を は求めており、ダムのような即効性のあるも だけが負担するのはおかしいとの議論がある。 との主張も根強い、③公共財なら水以外の公 べき、国民の環境を借りて林業をしている、 ②林業者は水土保全に配慮して森林保育をす つくりそれで水を貯溜することにあるが、下 水の受益者負担をとってみても森林の公益 水問題でいうなら、短期的な水対策を下流

の基金制度には「上流と下流が連帯して森林 理論的に整備して作られたものでない。今後 を管理していこう」という考えがベースにな 「上流と下流の対立を和らげる」性格を持ち、 明治以来の基金を見てくると現在の制度は

> えた対応が求められる。 要だが、水源が見えなくなっていることを考 森林の状況を知り、森林を良くすることが必 いといけない。そのためにも、下流は上流の

を事務局で要約したもの) (以上は講演と質疑のなかで触れられたこと

第3回(6月4日)

出席者 大内・岡・北村・近藤・田中 半田·萩野

島嘉寿雄(前東京都水源林事務所長) すすみ、荒廃して水害を発生することも多か 的で、水源維持の考えは無かった。 めた。当時は、災害防止と農業用水確保が目 35年に奥多摩に事務所をおき水源林事業を始 京府にも進言、府は明治32年から調査に着手、 は取り上げなかった。本多博士はその後、東 調査し、東京市に水源林経営を提起したが市 ったようだ。本多静六東京帝大教授が現地を った森林だったが、明治30年代までに伐採が 東京都の水源地帯は、徳川時代は鬱蒼と茂

手した。 京府が購入した山林は、43年東京市に移り 賜された県有林八○○○㎞を六○○○円で東 水源林の経営を市が決意した。御料林から恩 める契機になった。 42年尾崎行雄市長になり 年の台風で水が汚濁し、水源管理の決意を問 (購入)、45年から塩山(山梨県)の造林に着 東京市の淀橋浄水場が42年開業したが、42

計が負担、 水源林の管理に使用されている。水源林を管 の助成は、 現在は、年間四億円の事業費は都の水道会 そのほか国からの一億円余の林業 都から水道局に委託として払われ

水源維持のため伐採は、常時品当たり二○○水源維持のため伐採は、常時品当たり二○○本が残る状態で伐採するべきだ。林できるし、若者も山にくる。PRなどは行めできるし、若者も山にくる。PRなどは行業コストの低減のためには林道より二○○本が残る状態で伐採するべきだ。林の書が、

• 木原啓吉(千葉大学教授)

して活動をしているが、六五年ネプチューン計という。時々重要課題についてアピールを出21世紀までには三〇〇万人を目的に組織する八〇年には一五〇万人(一四・五ポンド)で、七〇年には会員二五万人(年会費二ポンド)が

森林などを購入した。いる。総延長二○○マイルの海岸線と背景の画をアピール、自然海岸の保全に乗り出して

かている(前回は24カ国参加)。
・四年毎に世界ナショナルトラスト会議を開いている(前回は24カ国参加)。
・四年毎に世界ナショナルトラスト会議を開いている(前回は24カ国参加)。
・コージカ(49年から、歴史的建物を対象)、ニュージカ(49年から、歴史的建物を対象)、ニュージカ(49年から、歴史的建物を対象)、ニュージカ(49年から全州に)、アメリカ(49年から全州に)、アメリカ(49年から全州に)、アメリカ(49年から全州に)、アメリカ(49年から全州に)、アメリカ(49年から全州に)、アメリカ(49年)

近く2号の承認があるはず。 されている。この法の適用は天神崎だけで、 本法がなく、法人の規定が厳格など問題も残 備された。しかし、ナショナルトラストの基 に寄付した財産は相続税免除」などの法が整 課税対象外」、 六一年に「自然環境保全法人 昭和六〇年に「自然環境保全法人への寄付は い取り)、小清水町などですすめられている。 い戻す)、妻籠(保全町並みの背景地の森林買 三七六mを購入)、天神崎(海岸の別荘地を買 11年で三億八六〇〇万円、目的の七六・四% ○㎡、購入、し、森林を回復しようとする運動 て売られようとしたのを、八〇〇〇円で一〇 知床一〇〇㎡運動(入植失敗地が別荘地とし を設立、住宅予定地を購入したのが始まり。 郎さんらが呼び掛け、「鎌倉の風致を守る会 日本は鎌倉の宅地開発をきっかけに大仏次

年の保存契約を結んだが、一二〇万円ででき近辺の二九、六六二㎞について地権者との一〇寄付の課税対象除外をきめた。秦野市の河川議」をつくり、基金制度と合わせて条令化、議」をつくり、基金制度と合わせて条令化、

活動としての意義もある。 活動としての意義もある。 日本のナショナルトラスト運動は①自治 は、②自治体と住民が協同という形があるが、自治体がこうした運動に拘われば、国 はの理解も深まり運動もすすむ。ナショナルトラスト運動は①自治 は、②自治体と住民が協同という形がある。 は、一次のでも取り組みを始めようとしていた。大和市でも取り組みを始めようとしていた。

を事務局で要約したもの)(以上は講演と質疑のなかで触れられたこと)

討論

- 性格が違う。と、補助金の不足分を補おうという基金とは。保全すべき森林が明確なナショナルトラスト
- 間伐も不用という考えも一部にある。日本の森林は手をかけなくても森林になる、いし、森林基金は対象がはっきりしていない。対象のはっきりしたナショナルトラストにた
- いう意見だが。 。人工林は手をかけても、天然林は放置すると
- 金の理念を具現するものでなければならない。やすい。国民森林会議の基金提言は、森林基。拠出の対象地がはっきりしていれば拠出はし
- りました。とういう仕事を基金でやるべきか、税金でやるべきものを肩代わりするべきでない。などの討論を交わし、次回のヒヤリング(黒沢などの討論を交わし、次回のヒヤリング(黒沢などの対論を基金でやるべきか、税金でや

クを受ける。野村長)、7月2日高橋裕芝浦工大教授)よりレ野村長)、7月2日高橋裕芝浦工大教授)よりレプロジェクトはこの後6月25日(黒沢丈夫上

会員紹介

いたち、著作、モット 紹介。する欄です。生 の方は到着しだい掲載 します) (五〇音順、一部未着 ジなどお寄せ下さい。 多様な会員を『自己 好きな本、メッセ

ン。

学部を経て、現在は青山学院女子 東京都公害研究所、 理学部博士課程で地球化学を専攻。 短期大学、 **青店「公害研究」編集幹事。** 出生地は長野県、 早稲田大学講師、 日本大学文理 東京都立大学 岩波

います。 を見届けたいという大望をもって こでもでかけていき、大きく目を 見開いて自然と社会と人間の変容 都市、学会から市民の会議までど 論を模索中です。川・海・山から バッハと堀田善衛の熱狂的ファ 社会地球化学という新しい方法

川* 紀。 子。

秋き

学部教授。 六六年から信州大学へ。現在経済 助手、農林省北陸農試を経て一九 学農学部卒。東京大学大学院・同 一九三二年新潟県生れ。新潟大

究』『現代借地制農業の形成』(以 させて頂きました。よろしく。 大内先生のご紹介で本会議に加入 業の問題に取組まされております。 経営』(家の光協会)など。 上御茶の水書房)『農業の技術と 信州に来て否応なしに山村や林 著書は『現代日本農民分解の研

伊小 藤 喜t 雄*

年東京大学農学部林学科卒。 大正七年高知市生れ。昭和 国土防災技術株式会社社

現在

好きな言葉 好きな著者 露の世ながらさりながら」 幸住むと人の言う」「露の世は 司馬遼太郎、松本清 「山の彼方の空遠く

メッセージ する技術をもって、国土の防災 と保全に貢献いたしたい。 「土と水と緑」に関 愛読書

古代史に関する書物を乱

1

尾* 崎 克。 幸*

川瀬 金次郎



一九一○年東京生れ。三四年東京大学農学部卒。満鉄公主嶺農試、京大学農学部卒。満鉄公主嶺農試、大陸科学院兼新京畜大教授、哈尔大陸科学院兼新京畜大教授、日本学授、日本土壌肥料学会長、日本学授、日本土壌肥料学会長、日本学技術協力に努力中(一九七八との技術協力に努力中(一九七八との技術協力に努力中(一九七八との技術協力に努力中(一九七八との技術協力に努力中(一九七八との技術協力に努力中(一九七八年以後一四回訪中)。

ピーマン、大根は一〇〇%)自給度約六〇%(馬鈴薯、茄子、原で通算一五〇日晴耕雨読。野菜原で通算一五〇日晴耕雨読。野菜原で通算一五〇日晴耕雨読。野菜原で通算一五〇日晴耕雨読。野菜原で通算一五〇日晴耕雨。

緑の団体協議会総会開催される昭和六十三年度

報告及び決算報告が行われた。 緑の団体協議会の昭和六十二年度の事業 は、江藤線化センター専務理事の司会で、 議事は、江藤線化センター専務理事の司会で、 議長には筒井迪夫東大名誉教授を選出。 来賓として、山内環境庁自然保護局長と、松 田林野庁長官のそれぞれの祝辞があった。 続いて、水上達三緑の団体協議会会長のあい さつ、江藤専務理事から昭和六十二年度の総会が五 報告及び決算報告が行われた。

事業報告を要約すると、

監査報告は、小山監事が行う。

「二十一世紀と森林」。これを冊子にして配布。
「二十一世紀と森林」。これを冊子にして配布。
「二十一世紀と森林」。これを冊子にして配布。

昭和六十三年度事業計画と予算案が提案された。提案のなかでは、会員団体の協議会の方式について意見交換をしたい。また、会員団体を今後特に、団体会員の増加を図っていきたいと表明され、報告・提案一括して承認された。 代表幹事については、水上達三先生、隅谷三喜男先生、高木文雄先生、片山正英先生の留任を決定。

一、開発と環境-

発と森林伐採、

飢餓、砂漠化。

-開発途上国と環境保全・開

をしあって発展をしてきた。「国民森林会議は、お互の立場を尊重し理解隅谷三喜男先生の提言の要旨は、

てしまっている。

教科書のなかに林業の問題がほとんど姿を消しているのではないか、例えば小学校・中学校のは、青少年の緑に対する関心が急速に失なわれは、青少年の緑に対する関心が急速に失なわれ

とらえてほしい。
文部省にも緑のことを考え、国家的見地で、教育の問題としても考えなければならない。即ち、自然環境のことが失われていくことは残

国民森林会議もそうした立場で活躍したい」を伸ばしていきたい。

と結んだ。

環境と開発に関する世界委員会報告ーマで、約一時間の講演が行なわれた。「森林と自然保護をめぐる国際動向」というテ十四時から、元外務大臣・大來佐武郎先生の

三、森林保護と日本の役割。 | 根息・食糧・エネルギー等の分野におけるバー、熱帯雨林保護――地球上の生物種の五割が

各代表幹事から提言が行なわれ総会は終了した。

森林の未来を憂えて

—国民森林会議設立趣意書

森林を伐りすぎたため、水資源の不安が強まっています。 日本の風景の象徴である松林が枯れつづけています。近年、台風や豪雪で各地の山林が大きな被害をうけました。また、

大規模に造林を進めたにもかかわらず、その手入れはなおざりにされています。 一九六〇年代の高度経済成長のもとで、人びとは農山漁村から大量に都市へ流出しました。とくに林業の分野では、戦後

とに暗いといわねばなりません。 日本の森林は、いま病んでいます。このままではわが国の文化を育んできた森林・山村はさらに荒廃し、その未来はまこ

一、森林は、林葉にかかわる人びとによってこれまで辛うじて支えられてきました。このままでは、その担い手を失う日が たちはどのように活力を与え、守り育てていくべきでしょうか。 一、二一世紀初頭までには、地球上の森林の二割が失われるといわれています。人類にとって重要な機能をもつ森林に、私 このような現実を見すごしてよいのでしょうか。いま私たちは、次のような課題の解決を迫られていると思います。

一、いまみられる民有林や国有林の危機的状態は、どのようにして克服することができるでしょうか。一、山村に住み、林葉で働いている人びとと、都市に住む人たちとはどのように手をにぎり合えるでしょうか。近いのではないでしょうか。

一、いま、わが国は、木材需要の七割を外材に依存しています。森林資源の枯渇する中で、開発途上国の森林にどのように このような森林をめぐる諸問題の解決は、決して林業関係者だけにゆだねておくべきではありません。美しい国土と緑を かかわるべきでしょうか。

子孫に残すために、日本の森林はどうあるべきか、いまこそ国民的合意を高める必要があります。

を望んでやまない次第です。 期したいと思います。このためには、広い視野と長期の展望に基づいた英知の広範な結集がぜひ必要です。 そこで「国民森林会議」を設立し、広く国民・政府に訴えることを決意するに至りました。多くの方々のご賛同とご加入 私たちは、以上のような国民的立場から、将来の森林や林業、山村のあり方を方向づけ、提言としてまとめ、その実現を

一九八二年一月九日

季刊国民と森林

1988年夏季号 第25号

- ■発 行 1988年7月1日
- ■発行責任者 隅谷三喜男
- ■発行所 国民森林会議 東京都港区赤坂1-9-13 TEL 03(583) 2 3 5 7 振替口座 東京2-70096
- ■定 価 1,000円(〒共) (年額 3,000円)